

天拝中学校屋内運動場空調設備設置工事

[illegible]

図 面 目 録

機械設備工事特記仕様書

1. 工 事 名 称	天祥中学校屋内運動場空調設備設置工事				
II. 工 事 概 要					
1. 工 事 場 所	福岡県筑紫野市立明寺458-1				
2. 建 物 概 要					
建 物 名 称	構 造	階 数	延面積(m ²)	防火対象物 の 種 別	戸数・浄化槽入槽 受水槽有効容量等
屋内運動場	R C				

工事種目	建物別及び屋外	工 事 種 別			
	屋内運動場				屋 外
・ 衛 生 器 具 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ 給 水 設 備	一式	一式	一式	一式	一式
・ 排 水 設 備	一式	一式	一式	一式	一式
・ 給 湯 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ 消 火 設 備	一式	一式	一式	一式	一式
○ ガ ス 設 備	一式	一式	一式	一式	改修工事 一式
・ 換 気 設 備	一式	一式	一式	一式	
○ 空 気 調 和 設 備	改修工事 一式	一式	一式	一式	
・ 排 煙 設 備	一式	一式	一式	一式	
・ 中 水 設 備	一式	一式	一式	一式	一式
・ 浄 化 槽 設 備					一式
・ さ く 井 設 備					一式
・ 電 気 設 備 工 事 ※	一式				一式
・ 建 築 工 事 ※	一式				一式

※ 各工事の特記仕様書を確認のこと

本 工 事 設 備 概 要		(本工事該当箇所に○印を付ける)
給排水衛生設備	給 水 方 式	上水水源（・市水・井水） 区画区分（・小規模排水・簡等・専用水道） 給水方式（・水道直結方式（・直圧・増圧） 高架水槽方式・ポンプ直送方式） 中水水源（・雑用水処理水・雨水・井水） 中水給水方式（・水道直結方式・高架水槽方式・ポンプ直送方式）
	排 水 方 式	・建物内汚水と雑排水（・分流・合流） ・重力式・ポンプアップ式・敷地外放流方式 ・直放流（・合流式・分流式）・非直放流（・浄化槽・中水処理槽）
	浄 化 槽 の 形 式	・ユニット型・現場施工型・放流水質BOD ng/L ・合併処理
	給 湯 設 備	・局所式・中央式
	消 火 設 備 の 種 別	・屋内消火栓（・1号・2号・易操作性1号）・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ・連絡取水・連絡送水 ・屋外消火・水噴霧消火・泡消火・不活性ガス・n0p%物消火・粉末消火
	ガ ス の 種 別	・都市ガス・液化石油ガス・簡易ガス

空 気 調 和 設 備	空 調 方 式	・ ダクト方式 ・ ファンコイルユニット ・ ダクト併用方式 ○ パッケージ方式 (・ 中央式 ・ 各階式 ・ 個別式) ・ 直接暖房 (・ 蒸気 ・ 温水) ・ 温風暖房 ・ 暖房専用 ・ 付与冷房可能 ・ 温風暖房機 ・ 空気調和機
	主 要 熱 源 機 器	・ 温水 ・ 蒸気 ・ 鍋敷製ボイラ ・ 鍋製ボイラ (・ 立てボイラ ・ 炉筒煙管式ボイラ) ・ 温風暖房機 ・ ヒートポンプチラー (・ 水冷 ・ 空冷) ・ 往復動冷凍機 ・ 遠心冷凍機 ・ 吸収冷凍機 ・ 直込式吸収冷凍機
	全 熱 交 換 器	・ 回転形 ・ 静止形 ・ 全熱交換ユニット
	換 気 設 備	・ 機械換気 (・ 有 ・ 無)
	排 煙 設 備	・ 機械排煙 (・ 有 ・ 無) ・ 法捉 (・ 建釜法 ・ 消防法)

5. 法令による区画（本工事該当箇所に入○印を付ける ※有の場合は、図示等による）		
建 築 基 準 法	防火区画	112条区画（・有 ・無） 114条区画（・有 ・無）
	延焼のおそれがある部分（・有 ○無）	
	排煙区画（・有 ・無）	
消 防 法	令8区画（・有 ・無）	
	共住区画（・有 ・無）	
そ の 他 の 区 画		

6. その他 (本工事に該当箇所に○印を付ける)

- ・ 週休2日促進工事
- ・ 入札時積算数量書活用方式対象工事
- ・ 快適トイレ設置対象
- ・ 情報共有システム活用
- ・ 余裕期間制度対象

※工事内容、留意事項等を必ず記載のこと。

屋内運動場への空調機の新設。

工 事 仕 様

1. 適用仕様等

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の仕様書による。

(1) 「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編 令和7年版）」	国土交通省大臣官庁庁舎官務部監修
(2) 「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編 令和7年版）」	国土交通省大臣官庁庁舎官務部監修
(3) 「公共建築工事標準仕様書（建築工事編 令和7年版）」	国土交通省大臣官庁庁舎官務部監修
(4) 「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編 令和7年版）」	国土交通省大臣官庁庁舎官務部監修
(5) 「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編 令和7年版）」	国土交通省大臣官庁庁舎官務部監修
(6) 「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編 令和7年版）」	国土交通省大臣官庁庁舎官務部監修
(7) 「公共住宅建設工事標準仕様書（令和元年度版）」	国土交通省住宅大臣官庁官務部監修

年度内に最新版が発行された場合は、最新版に準じる。

ただし、改定内容で発注仕様の変更又は工事仕様書の変更が生じる場合は、発注者との協議を要する。

補足基準等

適用仕様等、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の基準、指針、要領、構想図書による。

適用仕様等

- (１)「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編 令和7年版）」国土地交通大臣官庁官庁営繕部設備・環境課監修
- (２)「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編 令和7年版）」国土交通大臣官庁官庁営繕部設備・環境課監修
- (３)「建設工事標準詳細図（建築工事編 令和7年版）」国土交通大臣官庁官庁営繕部設備監修
- (４)「機設設備工事監理指針（令和7年版）」国土交通大臣官庁官庁営繕部監修
- (５)「電気設備工事監理指針（令和7年版）」国土交通大臣官庁官庁営繕部監修
- (６)「建築工事監理指針（令和7年版）」国土交通大臣官庁官庁営繕部監修
- (７)「建築改修工事監理指針（令和7年版）」国土交通大臣官庁官庁営繕部監修
- (８)「建築設計耐震設計・施工指針（2014年版）」独立行政法人 建築研究所監修
- (９)「建築工事安全施工技术指針・解説版」国土交通大臣官庁官庁営繕部設備監修
- (10)「施設廃棄物処理指針」厚生労働省生活衛生局
- (11)「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石棉飛散減速い防止対策マニュアル」（厚生労働省労働基準局安全衛生部化学物質安全管理課、環境省 水・大気環境部大気環境課）
- (12)「石綿含有廃棄物等処理マニュアル（第3版）」（環境省環境再生・資源循環局）
- (13)「建築工事の手引き」福岡県建築都市部編集

年度内に最新版が発行された場合は、最新版に準じる。

ただし、改定内容で発注仕様の変更又は工事価格の増減が生じる場合は、発注者と協議すること。

3. 現場に常備する図書等

1. 適用仕様等及び2. 補足基準 のうち、当該仕事に係る図書等については現場事務所に着用し、監督職員の承認を得ること。

4. 特 記 仕 様

(1) 章および項目には番号に○印のついたものを選択する。

(2) 特記事項のうち選択する事項は、原則として※印を選択するが、それ以外を適用する場合 は ○印をつけて選択する。

(3) 図面に明記なくも関係技術上、機能上・意匠上当りと認められるものは、本工事に施行するものとす。

	項 目	特 記 事 項
1 一 般 事 項	① 発 生 材 の 処 理	※18建設副産物の処理についての項を適用すること。 ※フロンの処理は、19フロン処理についての項を適用のこと。
	② 残 土 処 分	※外構出 〇構内取き均し
	③ 官公署その他への 手続き	工事内に必要な官公署その他の関係機関への諸手続等は、これに必要な資機材、労務、 及び費用を請負者の負担にて速やかにおこない、その検査に合格すること。
	④ 機能 試 験	工事の内容に応じて、機能試験を行うこと。
	⑤ 他 工 事 と の 取 合 い	※施工区分表による 〇図面詳細による
	⑥ 技 能 士 の 適 用	住宅においては20坪以上、住宅以外の建物については1,500坪以上の工事に適用すること。 ○配管（建築配管作業） 〇建築板金（タコ板金作業） 〇総括施工（保温保冷工事作業） ○冷凍空調調和機器施工（冷凍空調調和機器施工作業）
	⑦ あと施工アンカー	あと施工アンカーの施工は、（一社）日本建築あと施工アンカー協会の有資格者に行うこと。
2 改 修 工 事	① 監 督 員 事 務 所	○設けない 〇設ける （ 10 ㎡程度） 備品については監督員の指示による。
	② 工事用電力・水 その他	この工事に必要な工事用電力（仮設及び試運転調整用電力を含む）、水（機能検査、消火 用水及びブルの水張りを含む）及び諸手続などの費用は、すべて請負者の負担とする。
	③ 総合仮設計圖書	○表する 〇要しない
	④ 足場・構台	〇他工事 〇本工事（詳細図による。）
	⑤ 仮囲い等危険防止措置	〇他工事 〇本工事（詳細図による。）
	⑥ 工事表示板等	監督員の指示による。
	⑦ 工事車両の出入り口	工事用車両の出入口としては、一般通行人及び一般車両の安全確保に努めること。 交通誘導員 〇配置する（常時） 〇配置しない

① 機 材 この工事に使用する機材は、監督職員（係員）の承認を受けること。

② 容量等の表示 なお、材料及び製品については、地域産材の使用に努めること。

イ）機器等の能力、容量等（電動機出力は除く）は、原則として、表示された数値以上とすること。

ロ）電動機出力は、原則として、表示された出力以下の容量とする。

ハ）電動機の周波数は、60Hzとする。

③ 耐震施工 設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備調度設計・施工指針2014年版」による。

（1）設計用標準震度（Ks）

機器毎の耐震安全性の分類及び設置場所により下表より求める

設 置 場 所	耐震安全性の分類							
	○特定の施設				・一般の施設			
	重要機器	重要水栓	一般機器	一般水栓	重要機器	重要水栓	一般機器	一般水栓
上 層 階、 屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	2.0	1.5 (2.0)	1.5	1.0 (2.0)	1.5	1.0 (1.5)	1.0
中 間 階	1.5 (1.5)	1.5	1.0 (1.5)	1.0	1.0 (1.5)	1.0	1.0 (1.0)	0.6
地階及び1階	1.0 (1.0)	1.5	0.6 (1.0)	1.0	0.6 (1.0)	1.0	0.4 (0.6)	0.6

（ ） 書きの数値は防振機器

通		＊断風完全性の分類（一特定の施設 ・ 一般の施設） ＊次に示す機器を、重要機器、重要水槽とし、それ以外の機器を一般機器、一般水槽とする。 ＊上層階の定義は、次のとおりとする。 2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階 （2）地域係数（Z） 地域係数（Z）は、1.0とする。
	4. 防火区画等を貫通する配管	給水管その他の管が、建築基準法施行令第112条第15項の準耐火構造の防火区画等を貫通する場合の措置は、図1による。
事	5. 給水管等の材質	飲料用の水・給水管・継手、水栓等については、鉛に関する浸出性能基準を満足する以下。
	6. ライニング鋼管の継手	呼び径100以下はねじ接合、125以上はフランジ接合とする。

⑦	吊り及び支持等	図2による。 ※鋼材・ボルトナットを屋外又は多湿箇所を使用する場合は、溶融亜鉛メッキ（2種35） 又は、ステンレス鋼製（SUS304）とする。 ※色については、色に倣う。
⑧	埋設標識テープ	埋設深さは150mm、テープ幅は150mm以上（図3） 上（青） ガス（緑） 消火管（赤） 中水（黄色） 油（茶） その他については、監督職員（係員）の指示による。
⑨	地中埋設標識	標準仕様書による。・図示による。
10	地中埋設及びコンクリート管の防食	コンクリート管の防食は、防食用ビニールテープ巻（1/2巻ね1回巻）とする。 地中埋設は、ペトロラム系ペーストを塗布するのうえ、ペトロラム系防食テープ1/2巻ね1回巻きを行う。さらにプラスチックテープ1/2巻ね1回巻きを行う。継手は凹部分にペトロラム系マスキングを詰め、表面を平滑にすたえ防食シートで包み、プラスチックテープを1/2巻ね1回巻きとする。
⑪	コンクリート強度	イ）無筋コンクリートの配合は、1：2：4とする。 ロ）鉄筋コンクリートの設計強度は、18N/mm ² とする。
⑫	は	既存のコンクリート床、壁等の配管貫通の孔開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。事前に投電機等を使用し、コンクリート中の配筋・配管等を避けること。
13	電気工事	※電気工事士法に定める「電気工事」「軽微な工事」を自ら行うものは、電気工事業者の登録または届出及び電気工事士資格を要し、「軽微な作業」を自ら行うものは電気工事業者の登録または届出を要する。 ※特記なき電線管は、薄鋼電線管又は同一外径のねじり電線管とする。 ※可とう電線管は、2種金風可とう電線管とする。 ※特記なき電線は、600Vビニル絶縁電線とする。
14	鍵類	この工事で使用する鍵類の仕様については、監督職員（係員）の承諾を受けること。
15	矢	掘削深さ（1,500mm以上）の掘削には矢板を使用する。

4 衛 生 器 具 股 備	1. 大 便 器	和風大便器 ※節水型 ・ 一般型 ※耐火カバー（防火区画直通部） 洋風大便器 ※節水型 ・ 一般型 ・ 高座形
	2. 大 便 器 洗 淨 方 式	・ フラッシュタンク式 ・ 節水型 FV（バキュームブレーカ付） ・ タンク式
	3. 小 便 器	・ 床置型 ・ 壁掛型
	4. 小 便 器 洗 淨 方 式	※専用洗淨弁式 ・ 洗淨弁式
	5. 洗 面 化 粧 台	※洗面化粧台キャビネット部材は、ホルムアルデヒド放散量が日本農林規格（JAS）で定める☆☆☆☆基準のものとする。
	6. 水 栓	※節水コマ付 ・ 普通コマ付
	7. 鏡	・ 普通 ・ 盗難防止形 ・ 耐食 ・ 盗難防止形耐食 ・ 身体障害者対応
	8. 水 栓 柱	70° □×1300 ※合成樹脂製・人研製・SUS製
	9. 器 具 配 置	トイレブース内の紙巻器・リモコン類等についてはJIS S0026に則った配置とすること。

1.	量水器器	※計量法 検定合格品とする。 ・親メーター（※貨品 ・買取り）（直読式・遠隔式） ・子メーター（・貨品 ※買取り）（直読式・遠隔式）
2.	量水器附	・水道事業者指定品（・貨品 ※買取り）・国土交通省型 ・その他
3.	弁類	・水道直接部分 JIS（※10K ・ ） ・その他の部分 JIS（・5K ・10K ） ・塩ビインゴ鋼管及びポリ粉体鋼管の配管に取り付ける締鉄製の弁はラインング弁とし、青銅製弁は管端防食継手の規定に準じた管端コアを備えたものとする。 ・鋼鉄製ストレーナーはラインングを施したものである。
4.	弁附	・国土交通省型 図4による。
5.	配管材料	一般配管 ・塩ビラインング鋼管（SGP-VA） ・塩ビラインング鋼管（SGP-VB） ・水適用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）・錆鉄管（型種） ・ステンレス鋼管（SUS）（圧縮接合・溶接接合・拡管加工） ・業績ポリエチレン管またはポリブテン管（さや管工法）・金属強化ポリエチレン管 ビット内配管 ・塩ビラインング鋼管（SGP-VD）・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） 廊下、浴室等のシャワー内配管 ・塩ビラインング鋼管（SGP-VD） 屋内地中配管 ・塩ビラインング鋼管（SGP-VD）・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） ・水適用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP） 屋外地中配管 ・塩ビラインング鋼管（SGP-VD）・ポリ粉体鋼管（SGP-PD） ・水適用耐衝撃性硬質塩化ビニル管（HIVP）・水適用硬質塩化ビニル管（VP） ・ポリエチレン管 1種（PE）（溶着接合・金属継手接合）
6.	引込納付金等	※別途
7.	ポンプ基礎	・標準基礎 ・防震基礎
8.	他の設備項目の適用	下記のものは、空気調和設備の当該項目を適用する。 ①防火継手（口）ろわがびくひん ②防振吊り金物及び支持金物（ただし排水管のみ） ※標準単（a）・（b）※（c）スーククションによる。
9.	建物導入部配管	・一般敷地（・300mm・mm）・構内車両通路（・600mm・mm）
10.	管の埋設深さ	※用いる（図5による）。塩ビラインング鋼管と給水管・銅合金製配管附属品等との接続
11.	器具接続用管端	消防食継手

1. 配 管 材 料	・汚水管 ・硬質塩化ビニル管 (VP) ・耐火二層管 ・排水用塩化ビニリング鋼管 ・耐火性硬質ポリ塩化ビニル管 (FS-VP) ・硬質塩化ビシカルク管 (RF-VP) : ビット内 ・雑排水管 ・配管用炭素鋼管 (白) ・硬質塩化ビニル管 (VP) ・カラーVP ・耐火二層管 ・排水用塩化ビシカルク鋼管 ・耐熱硬質塩化ビニル管 ・耐火硬質塩化ビニ管 (FS-VP) ・硬質塩化ビシカルク管 (RF-VP) : ビット内 ・屋外排水管 ・硬質塩化ビニル管 (・VP・VU) ※呼び径125以上は原則としてVUとする。 ・小口径樹立り上り管・リサイクル硬質塩化ビニル管 (・※RS-VU) ・通 気 管 ・配管用炭素鋼管 (白) ・硬質塩化ビニル管 (VP) ・カラーVP ・耐火二層管 ・硬質塩化ビシカルク管 (RF-VP) : ビット内
2. 管 接 合	・鋼 管 (・ねじ込み式 ・ND継手 ・) ・排水用塩化ビシカルク鋼管 (・MD継手 ・)
3. 可燃材の区画処理	図1による。
4. 床 類	特記以外JIS 5Kとする。
5. 天井掃除口直下の曲管	排水鉄線管系統の床と掃除口直下に取付る管は45°2曲りとする。
6. コンクリート樹ふた	図面詳細による。
7. 小口 径 樹 付 た	図面詳細による他、下記による。 ミカゲ (未塗装部) 鉄線 (歩道部) 保護鉄線 (車道部) (・T-8 ・T-14 ・T-25)
8. 伸 縮 継 手	ビニル製伸縮継手
9. グリーストラップ	空気調和・衛生工学会規格SHASE-S 217 (グリース阻集器) によるものとする。
10. 差込ソケット (VV)	排水し流下のビニル製排水管には差込 (VV) ソケットを使用すること。
11. 満水試験継手	図示による。

1.	管	類	イ) ・ステンレス鋼管 (・圧縮接合 ・溶接接合) ・保温付ステンレス鋼管 ・耐熱セラミニング鋼管 ・鋼管 ・保温付被覆鋼管 ・被覆耐熱鋼管 ・架橋ポリエチレン管またはポリブテン管 (さや管工法) ・金属強化ポリエチレン管 ロ) 鋼管使用の場合はM管とし、電食防止施工を取付ける。 ※用いる(要否による。)
2.	器具接続用管端 防食管継手		
3.	弁	類	JIS 5K とする。ただし、特記部分ではJIS 10K とする。
4.	排気筒及び煙突		ガス湯沸器用排気筒は、JIS S 3025S によるSUS304(厚さ0.3mm以上)とする。 ・排気筒の断熱(※要(隔べいの箇所のみ) ・不要) イ) 断熱水槽の保温(・要 ・不要) ロ) コンクリート埋設部(・防水麻布巻 ・保温施工) ・瞬間式 ・貯湯式 ・風呂給湯器(オートタイプ) ・ガス ・灯油 ・電気
5.	保温		
6.	湯沸器		
7.	燃料		
1.	消火ポンプの基礎		・標準基礎 ・防振基礎 ・要 ・不要
2.	フート弁・呼吸槽 及びサクションカバー		
3.	屋内消火栓井		※減圧弁付
4.	保温		・屋內消火管 (・要 ※不要) ・屋外露出消火管 (※要 ・不要)
5.	管	類	・配管用炭素鋼鋼管(白)(屋內) ・外面被覆鋼管 (・SGP-VS ・SGP-PS) ※要
6.	消防設備土		

①. 種 類	○都市ガス（ガス種 ※13A・12A） ※ 液化石油ガス
②. 管 類	一般配管 ○配管用炭素鋼管（白） ○ガス用ステンレス製フレキシブル管 壁体内配管 ○硬質塩化ビニル被覆鋼管 ○ポリエチレン被覆鋼管 ビット内配管 ○硬質塩化ビニル被覆鋼管 ○ポリエチレン被覆鋼管 屋外埋設配管 ○ポリエチレン管JIS K 6774
③. 都 市 ガ ス	イ）ガスメーター 取替メーターはガス供給事業者より借用、子メーターは買取りとする。
④. 液化石油ガス	イ）ガスメーター（・買取り・借用） ロ）集合装置（・別途工事 ※本工事） ハ）転動防止用の鎖（・別途工事 ※本工事） ニ）ボンベ置場のコンクリート基礎（※別途工事 ※本工事） 運動スイッチ（・要・不要） ※本工事・別途工事 ※ガス漏れ警報器工事は、住宅工事においては原則として行わない。 液化石油ガス設備士による施工とする。 （財）日本エルピガス機器検査協会、検査合格品とする。
⑤. ガス通漏検の付属品	
⑥. ガス漏れ警報器	※要・不要
⑦. 施 工 資 格	
⑧. ガ ス 栓	
⑨. 絶 縁 継 手	
⑩. 建物導入部配管	※標準図（・a）・（b） ※（c）スリークッション）による。

1. ダクトの種類	※低圧ダクト	・高圧ダクト
2. 厨房ダクトの板厚	厨房排気ダクト（形状ダクトに限る）の板厚は、表1による	
3. ダクトの工法・種類	イ）給気用ダクト ・アングル工法 ・コーナーボルト工法（・共振 ・スライドオン） ・スパイラルダクト ・耐火二層管工法 ・VP管工法 ロ）排気用ダクト ・アングル工法 ・コーナーボルト工法（・共振 ・スライドオン） ・スパイラルダクト ・耐火二層管工法 ・VP管工法 ※厨房排気は原則としてアングル工法とすること	
4. ダクトの分岐方法	イ）給気用ダクト ロ）排気用ダクト	※割込み方式 ・直付け方式 ※割込み方式 ・直付け方式
5. 換 気 フ ード	※指定色仕上げ ・指定なし	
6. 厨房 排 気 フード	イ）排気フードの補強及び支持金物、接合材料等、亜鉛鍍板製風道の当該事項による。 ロ）材質 ※ステンレス製 ・亜鉛鍍板製 ※厨房 ※浴室（シール有） 下記のもの、空気調和設備の当該項目を適用する。 イ）風速測定器 ロ）チャンバー等 ハ）吹き口及び吸込口の材質 2）防塵ダクト ホ）消音内貼り ヘ）防振つり金 ・床置 ・標準基礎 ・防振基礎 ・天吊（標準吊による。）	
7. 多 温 室 所 の 範 囲	※厨房 ※浴室（シール有）	
8. 他 の 設 備 場 所 の 適 用	下記のもの、空気調和設備の当該項目を適用する。 イ）風速測定器 ロ）チャンバー等 ハ）吹き口及び吸込口の材質 2）防塵ダクト ホ）消音内貼り ヘ）防振つり金 ・床置 ・標準基礎 ・防振基礎 ・天吊（標準吊による。）	
9. 送 風 機 の 基 礎	・床置 ・標準基礎 ・防振基礎 ・天吊（標準吊による。）	

ダクトの材質

2. 排煙口

・亜鉛鉄板製

・普通鋼板製

イ) 形状

・スリット形

・パネル形

・ダンパー形

ロ) 開放装置

・手動

・手動及び遠隔操作可能なもの

1. 中央監視制御装置

・要

・不要

2. 中央監視制御装置の構成・機能

別紙による。

3. 電源装置

・要

・(木工事

・別途電気工事)

・不要

① 温度湿度調整目標値

(※冷・暖房期前若しくは指定日に適合調整を行い、試験運転成績表を提出すること)

	外 気			室 内							
				・ ()				○ 学校 (一般系統)		・ 学校 (厨房)	
	温度 (DB)	湿度 (WB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (WB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	
夏 季	34.8℃	27.5℃	57.1%	℃	℃	%	26.0℃	50 %	25.0℃	80 %	
冬 季	1.8℃	-0.7℃	59.2%	℃	℃	%	22.0℃	40 %	℃	%	

② 電気工事の範囲

※施工区分表による。・図面詳細による。

③ パッケージエアコン

イ) 冷媒 ※HFC系 (R407C, R410A, R134a, R32等)
ロ) 冷媒管 ※断熱材被覆銅管 (断熱厚さ: 液管10mm (液管の管径9.52mm以下は厚さ8mm)、ガス管20mm)
ハ) 冷媒管及びドレン管の区画処理 (・有 (※国土交通大臣認定工法・その他)・無)
ニ) ドレン管の材質 ・配管用炭素鋼管 (白) ○カラーVP
○結露防止層付塩化ビニル管 ・硬質塩化ビニル管 (RF-VP)
ホ) 室外機の基礎 ○標準架台 ・防護架台
ヘ) ※2015年省エネ基準値対応品とする

④ 配 管 材 料

(ハ「ク」7172を除く)

イ) 給水管 ・塩化ビニリング鋼管 (・SGP-VB ・SGP-VA)
ロ) 冷給水管 ・配管用炭素鋼管 (白) ・耐熱塩化ビニリング鋼管
ハ) 排水管 ・一般配管用ステンレス鋼管
ニ) 冷排水管 ・配管用炭素鋼管 (白) ○硬質塩化ビニル管 (VP) ○カラーVP
○結露防止層付塩化ビニル管 ・硬質塩化ビニル管 (RF-VP)
ホ) 給排水、安全管及び膨張水槽よりボイラへの給水管の配管材料は、水道用亜鉛メッキ鋼管とする。
ヘ) 冷媒管 (・銅管 ○断熱材被覆銅管 (製造者標準品))
ト) 冷媒管の区画処理 (・有 (※国土交通大臣認定工法・その他)・無)
チ) 膨張管、安全管及び膨張水槽よりボイラへの給水管の配管材料は、水道用亜鉛メッキ鋼管とする。

⑤ 冷 媒 類

6. 弁

7. 防 振 継 手

8. フレキブル・ジョイント

※HFC系 (R407C, R410A, R134a, R32等) ・自然冷媒 (CO2, NH3)
JIS 5K となる。ただし特記部分はJIS 10K となる。
・ベローズ形 ・合成ゴム製 (・合成ゴム製 ・3山ベローズ形)
※長さは標準仕様書による。
・ベローズ形ステンレス製 ・合成ゴム製

9. ダ ク ト

イ) 種別 (※低圧ダクト ・高圧ダクト)
ロ) 工法・種類 (・アングル工法 ・コーナポルト工法 (・共板 ・スライドオン) ・スライラダクト ・ステンレスダクト)
ハ) 分岐方法 (※前込み方式 ・直付け方式)
標準仕様書によるほか、取付を図示された部分に取付ける。
イ) シーリングディフューザーには、下記の接続チャムパーを設ける。
a) ネック径が200φ以下 400×400×250H
b) ネック径が200φをこえるもの 500×500×300H
ロ) フリースライン形吹出口には、下記の接続チャムパーを設ける。
a) シングル形 200×(L+100)×300H
b) ダブル形 250×(L+100)×300H
ハ) 外壁に面するガラリに直接取り付けけるチャムパー、ホッパーには排水弁を設ける。
イ) ユニバーサル形吹出口 ・銅板製 ※アルミ製
ロ) シーリングディフューザー ・銅板製 ※アルミ製
ハ) 吸込口 ・銅板製 ※アルミ製 (外気吸込口には防虫網付とする。)

10. 風 量 測 定 口

11. チ ャ ン パ ー 等

下記のものは本仕様による。
イ) 操作方式 ・電気式 ・空気式
ロ) 検出方式 ※遠隔式 (※電気式 ・空気式) ・手動式
ハ) 温度ヒューズ (・取り付ける ・取り付けない)
ニ) 表示用端子 (・設ける ・設けない)
銅板厚 4.5mm ※3.2mm

12. 吸出口・吸込口の材質

(シャッター共)

下記のものは本仕様による。
イ) 建物内の空気抜ききの保溫は、空気抜きき弁までとし、仕様は温水管の項による。
ロ) 空気調和機・ファンコイルユニット等の排水管の保温は、給排水衛生設備の排水管の項による。
ハ) 通り風道の保溫 (・要 ・不要) ニ) 膨張水槽の保溫 (・要 ・不要)
ホ) 内貼りチャムパー等の保溫 (・要 ・不要)
ヘ) 囲い風道の保溫でフレンジ部は保溫材と取重ねとする。

13. 防 煙 ダ ン パ ー

イ) 内貼りの材料及び施工法は、標準仕様書の当該事項による。
ロ) 施工箇所は、図示した風道並びにチャムパー類とする。
ハ) 内貼りチャムパー類の寸法表示は、外形寸法とする。

14. 煙 道

15. 保 温

下記のものは本仕様による。
イ) 圧力計及び通気計
ニ) 風量計
※要 (※標準仕様書による。・図示による。) ・不要
・流量調節弁 ・定流量弁 (流量設定が可能なもの)

16. 消 音 内 貼 り

イ) 防油堤 (コンクリート製) ※別途工事 ・木工事
ロ) フロートスイッチの機能は、下記による。
・給油ポンプの起動、停止 ・満油警報 ・減油警報
ハ) 油面計 (・フロート式 ・ゲージ式)
イ) タンク室 ・設けない ・設ける (・別途工事 ・木工事)
ロ) 計量器 (・計量尺 ・直読式 (防水蓋スプリング付、プロテクター共) ・遠隔式)
ハ) 土工事 ・オープンカット ・矢板 (・有 ・無) ・特殊基礎 (・有 ・無)

17. 機 器 類 の 架 台

イ) パッケージ形空気調和機 (・防護バット ※木台 ※転倒防止処理)
ロ) ユニフォーム空気調和機 (・標準架台 ・防護架台)
ハ) 送風機 (・標準架台 ・防護架台) ニ) ポンプ (・標準架台 ・防護架台)
ホ) 冷凍機 (・標準架台 ・防護架台)
ヘ) チラウユニット (・標準架台 ・防護架台)
・防鼠ワリ金物 (・シングル ・ダブル) (・中央機械室 ・各階機械室)

18. 機 械 室 (配管・風道) の つ り 金 物

イ) 圧力計及び通気計
ニ) 風量計
※要 (※標準仕様書による。・図示による。) ・不要
・流量調節弁 ・定流量弁 (流量設定が可能なもの)

19. 温 度 計

20. 圧 力 計 及 び 通 気 計

21. 風 量 計

22. ファンコイルユニット用調節弁

23. 油 サービス タ ン ク

イ) 防油堤 (コンクリート製) ※別途工事 ・木工事
ロ) フロートスイッチの機能は、下記による。
・給油ポンプの起動、停止 ・満油警報 ・減油警報
ハ) 油面計 (・フロート式 ・ゲージ式)
イ) タンク室 ・設けない ・設ける (・別途工事 ・木工事)
ロ) 計量器 (・計量尺 ・直読式 (防水蓋スプリング付、プロテクター共) ・遠隔式)
ハ) 土工事 ・オープンカット ・矢板 (・有 ・無) ・特殊基礎 (・有 ・無)

24. 地 下 貯 油 槽

イ) 防油堤 (コンクリート製) ※別途工事 ・木工事
ロ) フロートスイッチの機能は、下記による。
・給油ポンプの起動、停止 ・満油警報 ・減油警報
ハ) 油面計 (・フロート式 ・ゲージ式)
イ) タンク室 ・設けない ・設ける (・別途工事 ・木工事)
ロ) 計量器 (・計量尺 ・直読式 (防水蓋スプリング付、プロテクター共) ・遠隔式)
ハ) 土工事 ・オープンカット ・矢板 (・有 ・無) ・特殊基礎 (・有 ・無)

25. 予 備 品

※ファンコイルユニット付属品
イ) 運転表示ランプ 台数の1/2以上
ロ) フィルター 各型番台数の1/2以上
※自動巻取形空気濾過用フィルター (各台1巻)
※ユニット形空気濾過器 巻

26. アワーメーター

27. 度 数 計

28. 煙 道 温 度 計

29. ばいじん量測定孔

※要 (指定機器) ・不要
※要 (指定機器) ・不要
・設ける
・設ける (煙道の直轄部に直径80φ以上のフランジ付とする。) ・設けない

R 4 - 5

年 月 日

工事名称	天拝中学校屋内運動場空調設備設置工事		特記仕様書(1)	
工事場所	福岡県筑紫野市立明寺458-1		図番	M-01号
設計者氏名	一級建築士 第126874号 田中 孝秀			
事務所名及び所在地	 株式会社 アスク設計 TEL0979-82-5554 本社〒828-0021 福岡県荒川区大字1648-11			

14
受
設
槽

15
浄
化
槽

16
管
類
保
温
仕
様

管類については○印を塗りつぶしたものを適用する

17
住
宅
保
温
仕
様
（管類については○印を塗りつぶしたものを適用する）

※加圧給水ポンプ（住宅物件）の仕様については、加圧給水ポンプユニット仕様書（国土交通省仕様）による。

※浄化槽仕様書による。

施 工 箇 所	保 温 種 別	区 別
給排水衛生設備管類		
屋 内 露 出	1.グラスウール 2.鉄線 3.合成樹脂製カバー 保温巻	給水管 排水管 汚水管 給湯管 ガス管
機 械 室 ・ 倉 庫	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラスクロス 化粧断熱	
天井内・PS内・空隙壁中	1.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温巻 2.アルミガラスクロス 化粧テープ	
床 下 ・ 暗 渠 内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリエチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	
床下・暗渠内・コナリト内	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリエチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	
屋外露出・多湿箇所	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリエチレン フィルム 4.ステンレス鋼板 保温巻	
屋外露出・多湿箇所	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリエチレン フィルム 4.ステンレス鋼板 保温巻	
黒 管 塗 装	1.錆止めペイント (2箇所)	
白 管 塗 装	1.エッチングプライマー (2箇所) 2.錆止めペイント (1箇所) 3.錆合ペイント (2箇所)	
施 工 箇 所	保 温 種 別	区 別
屋 内 露 出	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリスチレン フィルム 4.合成樹脂製カバー 保温巻	給水管 排水管 汚水管 プライマー 給湯管
屋 内 露 出	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリエチレン フィルム 4.合成樹脂製カバー 保温巻	
屋 内 露 出	1.縦断鋼管の新断熱材 2.保温化粧ケース	
機 械 室 ・ 倉 庫	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリエチレン フィルム 4.アルミガラスクロス 化粧断熱	
天井内・PS内・空隙壁中	1.アルミガラスクロス化粧材 グラスウール保温巻 2.アルミガラスクロス 化粧テープ	
天井内・PS内・空隙壁中	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリエチレン フィルム 4.アルミガラスクロス 化粧断熱	
天井内・PS内・空隙壁中	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリエチレン フィルム 4.アルミガラスクロス 保温巻	
床下・暗渠内・コナリト内	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリエチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	
床下・暗渠内・コナリト内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリエチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	
屋外露出・多湿箇所	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリエチレン フィルム 4.ステンレス鋼板 保温巻	
屋外露出・多湿箇所	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリエチレン フィルム 4.ステンレス鋼板 保温巻	
屋外露出・多湿箇所	1.縦断鋼管の新断熱材 2.保温化粧ケース	
区 分	機 械 室 ・ 倉 庫 ・ 倉 庫 居 室 ・ 廊 下	屋 内 隠 ぺ い 屋 外 露 出 多 湿 箇 所
矩 形 風 道	1.鉄 2.アルミガラス クロスを化粧 グラスウール 保温巻 3.着色亜鉛鉄板	1.鉄 2.グラスウール 保温巻 3.ポリエチレン フィルム 4.鉄線 5.ステンレス鋼板
円 形 風 道 (スパイラルダクト)	1.アルミガラス クロスを化粧 グラスウール 保温巻 2.鉄線 3.着色亜鉛鉄板 テープ	1.アルミガラス クロスを化粧 グラスウール 保温巻 2.鉄線 3.ポリエチレン フィルム 4.鉄線 5.ステンレス鋼板
区 分	保 温 種 別	区 分
矩 形	屋内隠ぺい 1.鉄 2.アルミガラスクロス化粧 グラスウール保温巻 3.アルミガラスクロス化粧テープ 4.きつ甲金網 (鉄)	
円 形	屋内隠ぺい 1.アルミガラスクロス化粧 ロックウール保温巻 2.アルミガラスクロス化粧テープ 3.きつ甲金網 (鉄)	
煙 道	1.ロックウールブランケット 2.鉄線 3.着色亜鉛鉄板	
※ポリスチレンフォーム保温巻及びロッカー保温巻又は、保温板の使用が困難な箇所は、ロッカーを使用してもよい。		
※ストレーナー・弁の保温は、屋内屋外ともビスなどにより容易に着脱できる構造とすること。		
※防火区画を貫通する管の保温は、その貫通する部分をロックウール保温材とする。		
※蒸気管、温水管の保温は、ポリエチレンフィルムを除く。		
※スパイラルダクト（フランジ部を除く。）の保温は、グラスウール保温板32K使用してもよい。		
※OAダクトが室内空調空間を経由する場合は保温すること。		
※全熱交換器の一次側OA、EAダクトは保温工事を施すこと。		
※ドレン管の保温は、排水管の項による。		
施 工 箇 所	保 温 種 別	区 分
屋内露出（住宅内）黒管	1.錆止めペイント (2箇所) 2.錆合ペイント (2箇所)	給水 排水 給湯 ガス
屋内露出（住宅内）白管	1.エッチングプライマー (1箇所) 2.錆止めペイント (2箇所)	
屋外露出（住宅外）	1.エッチングプライマー 2.鉄線 3.鉄線 4.機板 5.錆止め 6.錆合ペイント (2箇所)	
機 械 室 内	1.グラスウール 2.鉄線 3.鉄線 4.アルミガラス クロス	
メーターボックス内黒管	1.錆止めペイント (2箇所) 2.錆合ペイント (2箇所)	
メーターボックス内白管	1.エッチングプライマー (1箇所) 2.錆止めペイント (2箇所)	
メーターボックス内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラス クロス	
床 下 ・ 暗 渠 内	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリエチレン フィルム 4.着色アルミガラス クロス	
床 下 ・ 暗 渠 内	1.錆止めペイント (鋼管部)	
天 井 内 ・ P S 内	1.グラスウール 2.鉄線 3.アルミガラス クロス	
スラブ上床板間転がし	1.保温チューブ	
スラブ上床板間転がし	1.むし防蟻シート	
洗 面 台 内	1.エッチングプライマー (1箇所) 2.錆止めペイント (2箇所)	
屋 外 露 出	1.ポリスチレン 2.粘着テープ 3.ポリエチレン フィルム 4.ステンレス鋼板 保温巻	
屋 外 露 出 黒 管	1.グラスウール 2.鉄線 3.ポリエチレン フィルム 4.ステンレス鋼板 保温巻	
屋 外 露 出 白 管	1.錆止めペイント (2箇所) 2.錆合ペイント (2箇所)	
コンクリート内	1.エッチングプライマー (1箇所) 2.錆止めペイント (2箇所)	
木 造 壁 内	1.保温チューブ	
流 し 裏	1.保温チューブ	
土 中 埋 設	1.ベーストベトラタム系 2.ベトラタム系防水テープ 1/2重ね1回巻	

18
建
設
副
産
物
の
処
理
に
つ
い
て

19
フ
ロ
ン
処
理
に
つ
い
て

20
中
水
道
配
管
設
備

資源の有効利用、環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制、再利用、適正処理を推進する。

現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別保管場所を設置し集積すること。

また、「再生資源の利用の促進に関する法律」、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。

工事に際しては、工事着手時に「建設副産物処理計画書」、工事竣工時に「建設副産物処理結果報告書」（共に添付書類を含む）を提出すること。

指定副産物（原則として再資源化施設へ持込むもの）	その他の副産物
・がれき類（コンクリート塊）（アスファルト塊）	・廃プラスチック
・木くず	・ガラス、陶磁器くず
・汚泥	・廃石こうボード
	・金属くず
	・繊維くず

特別管理産業廃棄物

・廃石綿等

1. 除去処理

アスベスト含有保温材等（煙突用断熱材は除く）の除去は可能なかぎり粉じん飛散抑制剤で十分に湿潤化した後、手ばらしで行う事。手ばらし以外の除去（グروبバック方式による除去は除く）の場合は、「改修仕様」9.1.3および「改修指針」9.1.3による。

2. 汚染物処分

(1) 除去したアスベスト含有保温材等の処理方法は、「改修仕様」9.1.3(b)(2)及び「改修指針」9.1.3(b)(2)により、密封処理する。

(2) 施工区域内において、アスベスト含有保温材等の廃材を高所から移動する場合は、揚重機を使用して、アスベスト含有保温材等を高所より落下させない事。なお、アスベスト含有保温材等の保管、運搬、処分等については、「改修仕様」9.1.3(c)及び「改修指針」9.1.3(c)による。

・廃PCB等

「電気事業法：電気関係報告規制」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・提出を行うとともに、適切に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。

※参考受入場所は現場説明書による

処 理 内 容	備 考
現 場 内 に お け る 分 別	
現 場 内 分 別 保 管 場 所 の 設 置	
現 場 内 分 別 保 管 場 所 ま で の 運 搬	
分 別 保 管 場 所 か ら の 積 込 み ・ 運 搬 ・ 処 分	
「建設副産物の処置計画書」の作成	下請工事の場合は不要
「建設副産物の処理結果報告書」の作成	下請工事の場合は不要
「再生資源利用計画書」の作成	下請工事の場合は不要
「再生資源利用実施書」の作成	下請工事の場合は不要

「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」に従い処理すること。

発注者（施設管理者）	発注者（施設管理者）
業務用冷凍空調機器の有無の事前確認への協力	業務用冷凍空調機器の有無の確認確認結果を画面上で説明
フロン類引渡回収・運搬・破壊費用支払委託確認書	フロン回収証明書
工事請負業者	引取証明書、業者登録書のコピー
第1種フロン類充てん回収業者	第1種フロン類充てん回収業者
フロン類破壊・再生業者	フロン類破壊・再生業者

※ 工事請負業者は、第1種フロン類充てん回収業者にフロン回収処理を依頼し、回収後、引取証明書及び第1種フロン類充てん回収業者登録書のコピーの発行を受け、竣工図面に添付のこと。

※ 家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）に該当する機器（冷暖エアコン等）については、適切に処理し、管理票（家電リサイクル券）を竣工図面に添付すること。

3. 誤接続の防止対策

配 管 等	※塗装できない管種にはテープ巻きを施すこと
屋内隠ぺい配管	1. 保温前の裸管に若草色の着色塗装を行う。 2. 保温後の上には若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。
屋内・屋外露出配管	1. 保温前の裸管に若草色の着色塗装を行う。 2. 保温後の要所には「処理水」と表示する。
地 中 埋 設 部	1. 埋設前の裸管に若草色の表示テープを1箇所3回巻きにし、1m間隔に巻く。
コンクリート内埋設部の配管	2. 「処理水」の文字入り埋設標識テープ（黄色）を布設する。（地 中 埋 設 部）
メーター	1. メーター本体に若草色の着色塗装を行うこと。 2. メーターボックス蓋は「処理水」入りを使用すること。
バルブ等	1. バルブハンドルには若草色の着色塗装を行うこと。 2. バルブ等で誤操作する恐れのある箇所には、標示板等を取り付け処理水の等であることが識別できるようにする。 3. 地中埋設/バルブの鉄蓋は「処理水」入りを使用すること。

注）若草色とは黄緑色をいう。

処理水の若草色表示テープ、黄色の埋設標識テープは福岡市管工事組合に常備。井戸水を雑用水として使用する場合は、上表において「若草色を紫色に」、「処理水を雑用水」と読みかえる。

4. 試験

誤接続がないことを確認するため衛生器具等の取付完了後、系統毎に着色水を用いた通水試験等を行う。

図1 防火区画等貫通部措置

給水管、排水管及び通気管等が防火区画等を貫通する場合の措置は、建築基準法施行令第129条の2の4第1項第7号に規定されており、次のいずれかに該当すること。

1. 防火区画等の貫通部分及び両側1m以内を不燃材料で造ること。（右参考図参照）

※ 耐火二層管は不燃材料に該当せず、後述の3.に従う。

2. 平成12年建設省告示第1422号に適合すること。（下表）（難燃材料又は硬質塩化ビニル管(VP)を用いる場合）

用途	覆いの有無	肉厚	給水管等の外径			
			防火構造	30分耐火構造	1時間耐火構造	2時間耐火構造
給水管	無し	5.5mm以上	90mm(75)			
		6.6mm以上	115mm(100)		90mm	
		4.1mm以上	61mm(50)			
		5.5mm以上	90mm(75)		61mm	
排水管及び排水管に付属する通気管	厚さ0.5mm以上の鉄板の覆い有り	5.5mm以上	90mm(75)			
		6.6mm以上	115mm(100)	90mm	61mm	
		7.0mm以上	141mm(125)	115mm	90mm	

※表中の（ ）内は適合可能な硬質塩化ビニル管(JIS K 6741のVU管を除く）の呼び径寸法を示す。

※呼称寸法未満の給水管等については、JISに適合した硬質塩化ビニル管であれば、表中の肉厚に満たなくても同一の性能を有しているものとして取り扱う。

3. 国土交通大臣の認定を受けたものであること。

例1）硬質塩ビサイクル管(RF-VP)に防火区画貫通用テープを用いる場合（右参考図参照）

例2）耐火二層管を認定条件に従って施工する場合（立管はすべて耐火二層管とし、横管は立管の分岐から1mまでを耐火二層管とし、その延長部分を硬質塩化ビニル管とした場合など）

図2 機器の吊り施工例

吊り長さが700mm以上、かつ重量10kg以上の設備機器については四隅を鉛直吊りボルトで支持し、横管は立管の2本毎にX状材料を斜めめで堅固に取り付けて、天井との相関変位を抑制すること

対象 吊り長さL ≧ 700 mm 機器重量W ≧ 10 kg

※ ただし、

・天井吊形のファンコイル

・天井吊形又はカセット形の空調調機室内機

・天井隠ぺい形全熱交換ユニット

の設置は、上記にかかわらず全て吊り用ボルトで行い、振れ止めを施したものとす

図3 配管埋設参考

埋 設 深 さ H

1 300以上

2 600以上

3 以上

図4 弁柵

VC-1〜VC-5

VC-P

注（イ）本表のB及びH寸法は、5K仕切弁を対象とする。

（ロ）コンクリート部には、必要に応じ鉄筋を入れる。なおコンクリート部は工場製品でもよい。

（ハ）樹底部には、必要ある場合は、水抜管を設ける。

図5 異種金属接続部

異種金属接続部は、屋外埋設配管を除き電食防止のため、異種金属接続用絶縁継手を使用すること。使用箇所を下記に示す。

1. 砲金製バルブと塩ビライニング鋼管接続部（コア入りバルブは除く。）

2. 衛生器具（水栓類、便器、洗面器等）接続管と塩ビライニング鋼管接続部

3. マイクロエアベンド及びエアセパレーターと塩ビライニング鋼管接続部

4. 水道メーター（砲金）、伸縮弁（砲金）、伸縮メーターユニオン（砲金）と塩ビライニング鋼管接続部

5. 水抜きテスト弁と塩ビライニング鋼管接続部

6. 上記以外の異種金属接続部

表1 厨房排気ダクトの板厚

厨房排気ダクト（矩形ダクトに限る）の板厚については、以下による

ダクトの長辺	板厚	
	亜鉛鉄板	ステンレス鋼板
450以下	0.6以上	0.5以上
450を超え1,200以下	0.8以上	0.6以上
1,200を超え1,800以下	1.0以上	0.8以上
1,800を超えるもの	1.2以上	

※ 原則、アングルフランジ工法にてシールを施すこと

参 考 図

参考図1 水槽類埋設

参考図2 ドロップ柵参考図（※副管サイズは主管サイズより1サイズ下でも可。）

参考図3 小口径柵取付要領図

（1）重荷重

（2）軽荷重

【発注図】

R4-5

年 月 日

工事名称 天拝中学校屋内運動場空調設備設置工事 特記仕様書(2)

工事場所 福岡県筑紫野市立明寺458-1

設計者 一級建築士 第126874号 田中 孝秀

事務所名 株式会社 アスク設計

及び所在地 TEL0979-82-5554 本社〒828-0021福岡県筑紫野市大字八幡1648-11

施 工 区 分 表

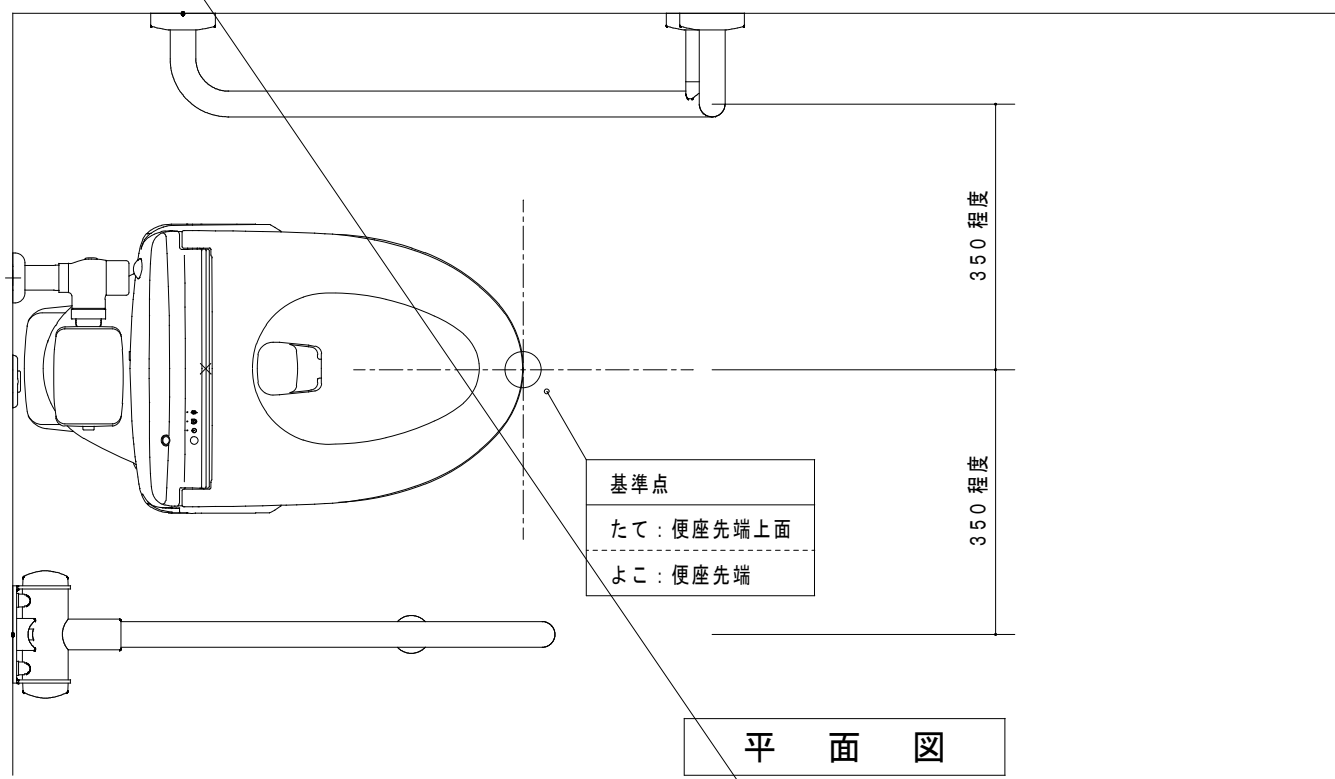
(○印を塗りつぶしたものを適用する) (点線網掛け範囲：建築・機械工事)

工 事 内 容			建 築	外 構	植 栽	電 気	電 話	昇 降	給 衛	空 調	ガ ス	黒 板 畳	備 考
機器の基礎	電気関係	屋内	○										電 気 と 十 分 協 議 す る こ と
		配電盤・制御盤の基礎	屋外	○									
		屋上	○										
		自家発電機の基礎 (アンカーボルトを除く)	○										
		テレビアンテナの基礎 (")	○										
	機械関係	避雷針の基礎 (")	○										機 械 と 十 分 協 議 す る こ と
		屋内設備	○										
		屋外設備 (架台、アンカーボルト除く)	●										
	屋上設備 (架台、アンカーボルト除く)	○											
	特記した基礎	○											
開口部	梁、床、壁	補強を要するもの				○	○	○	○	○	○		
	貫通スリーブ	補強を要しないもの				○	○	○	○	○	○		
	梁、床、壁	補強を要するもの	○										
	貫通部型枠	補強を要しないもの	○										
	軽量鉄骨下地、	補強を要するもの	●										
	壁・天井ボード類の切込み	補強を要しないもの	●										
	埋込型分電盤、	補強を要するもの	○										
	端子盤等の型枠	補強を要しないもの	○										
	上記開口部の補強		●										
	上記開口部の墨出し					○	○	○	○	●	○		
点検口	スリーブの穴埋め (型枠の穴埋めを含む)				○	○	○	○	○	○			
	○Ａフロア器具取付用				○								
ガラリ	床、壁、天井	●											
	外壁面 (ダクト、チャンバーの接続用含む)	○											
排気フード	建具取付	○											
	空調用リターン												
換気フード	厨房								○	○	○		
	上記以外								○	○	○		
換気扇の取付枠及びアルミパネル		○											
換気扇	壁換気扇 (ウェザーカバー含む)									○			
	天井換気扇 (ペントキャップ含む)									○			
流し台	排水トラップ含む												
防油堤	オイルサービスタンの防油堤												
	自火発電用 空調用	○											
床下水槽のマンホール蓋		○											
	雨水	○											
屋外配水管	汚水、雑配水管	○							○				
雨水縦樋		○											
身障者用便所手すり		○											
はめ込み形洗面器用カウンター (前板共)		○											
ガスボンベ転倒防止用の鎖		○											
電気配管配線	機械設備機器付属の制御盤以降の配管配線 (接地共)					●				●	○		リモコン配管・電気 リモコン配線・空調
	機械設備機器付属の制御盤と電源供給及び配管配線					●							
	機械設備自動制御と電気設備盤との電源供給					○							
	機械設備自動制御と電気設備盤との操作回路の渡り配管配線									○			
	天井吊り型ＦＣＵ、個別パッケージ、全熱交換器と操作スイッチとの渡り配管					○							
	天井吊り型ＦＣＵ、個別パッケージ、全熱交換器と操作スイッチとの渡り配線									○			
	天井吊り型ＦＣＵ、個別パッケージ、全熱交換器と操作スイッチ									○			
	天井吊り型ＦＣＵ、個別パッケージ、全熱交換器と操作スイッチ埋込ボックス					○							
	煙感知器から連動制御盤を経て防煙ダンパー及び排煙口に至る配管配線					○							
	小便器用節水装置制御盤以降の配管配線								○				
	自動ドア及び電動シャッターなどの制御部への電源供給					○							
	自動ドア及び電動シャッターなどの制御部												
	自動ドア及び電動シャッターなどの操作スイッチ間の配管配線及び操作スイッチ					○							
	防火扉レリーズ					○							
パッケージエアコンの配線	電極棒					○							
	配線ビット及び蓋	○				○							
	別途機器などへの接続					●			○	○			
	室外機・室内機間の伝送線									●	●		
	室外機・室内機間の電源渡り線									●	●		
	室内機・リモコン間の配線									●	●		
	室内機・リモコン間の配管					●							
	リモコン埋込ボックス					●							
室内機・集中リモコン間の渡り伝送線									●				
ガス漏れ探知機 (遮断弁連動)										○			
○Ａフロア用配線器具					○								
電気錠	電気錠及び通電金具												
	ＴＥＮキー及び制御盤				○								
エレベーター出入口三方枠 (金属製)							○					大理石のみ建築工事	
シャワーユニット (バスユニット)		○											
ガス給湯器リモコン用ケーブル								○		○			
ガス給湯器電線管及びボックス					○								
畳工事											○		
黒板工事	下地補強											○	
	黒板・白板・掲示板											○	
植栽工事				○									

多目的便所器具設置要領図

A1:1/10
A3:1/20

※大便器位置、手すり、紙巻器 取付位置は 要領図に準じること。



① L型手摺	(建築工事)
たて：基準点 +250 程度	
FL+650 (一般便器)	
FL+700 (高座面便器)	
よこ：基準点 +250 程度	

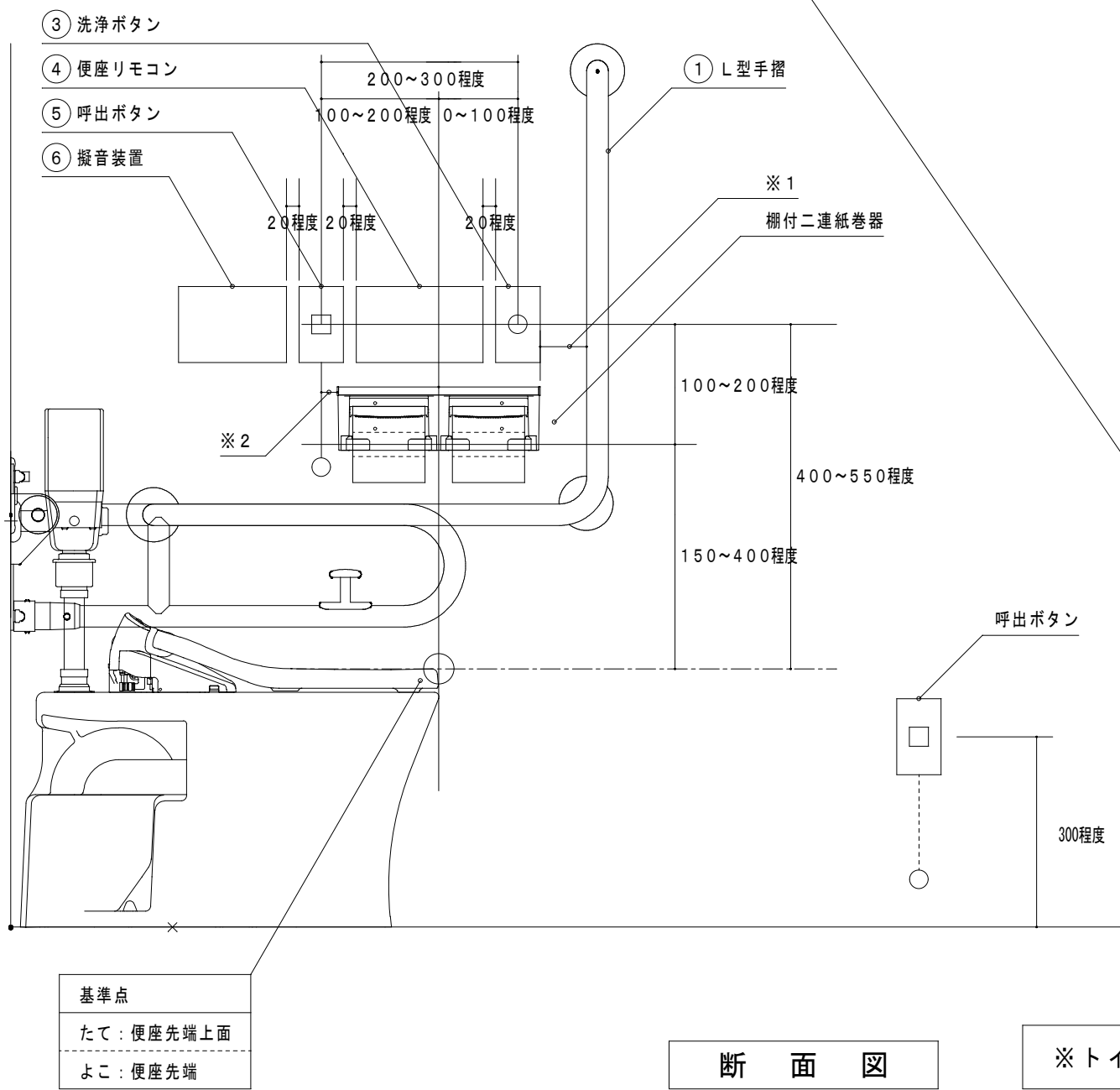
② 棚付二連紙巻器	(機械工事)
よこ：紙巻器芯＝基準点	
※1 手摺面との間を50mm以上	
確保	

③ 洗浄ボタン	(機械工事)
---------	--------

④ 便座リモコン	(機械工事)
----------	--------

⑤ 呼出ボタン	(電気工事)
※2 引きひもが欄に掛らない事。	

⑥ 擬音装置	(機械工事)
--------	--------



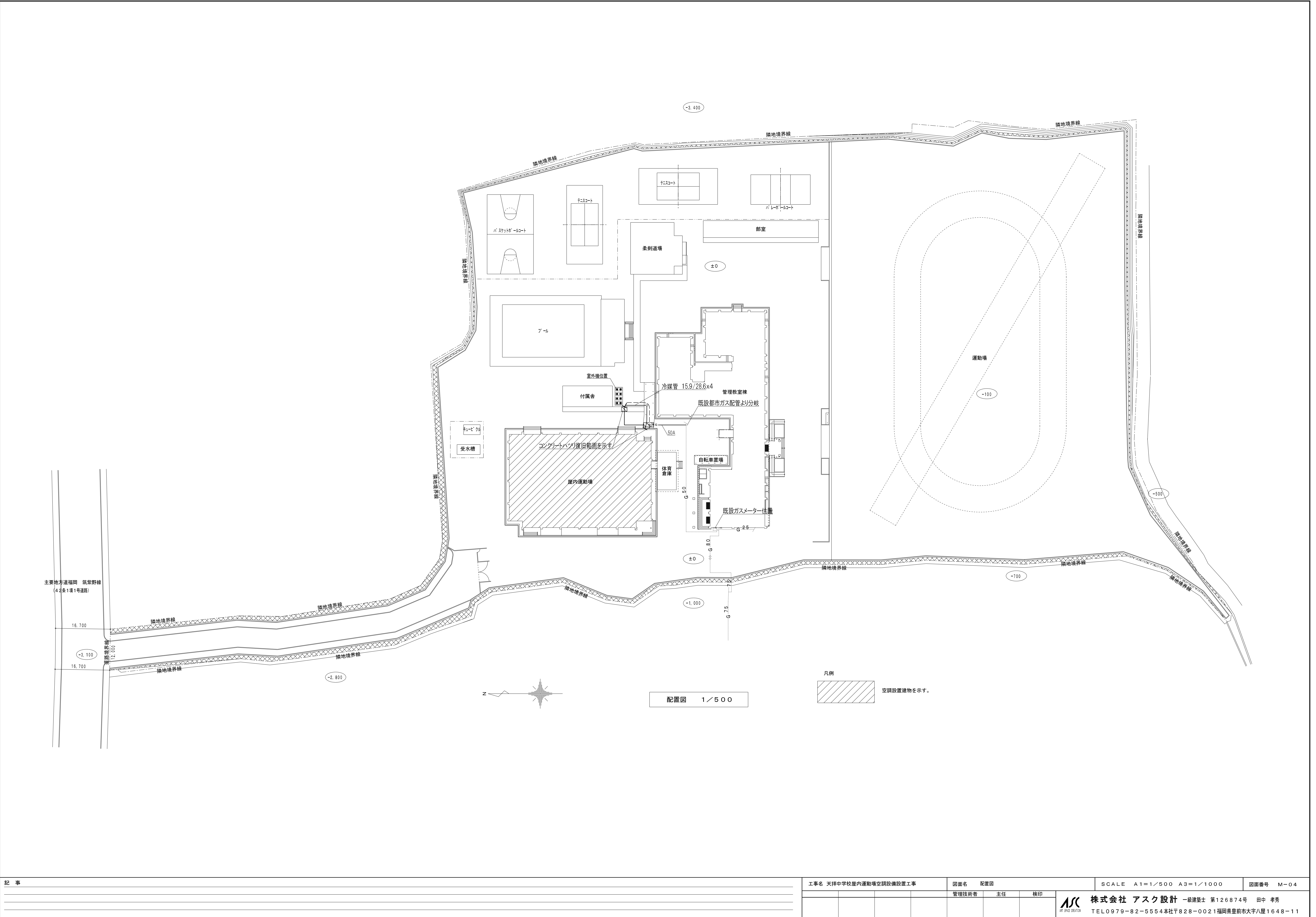
※トイレリモコンの設置位置は、JIS-S-0026によること。

【発注図】

R4-5

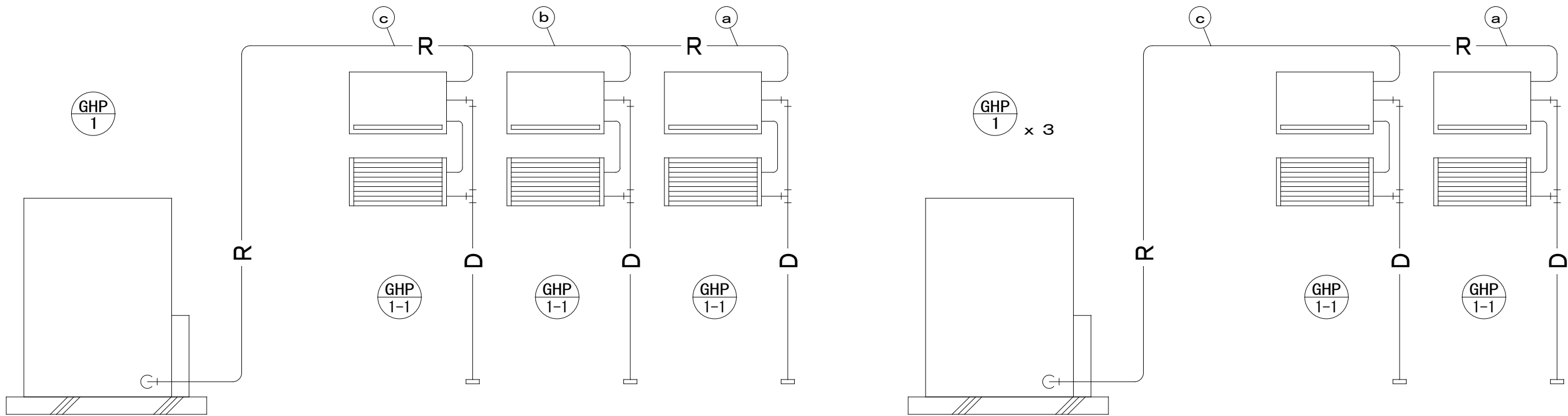
年 月 日

工事名称	天祥中学校屋内運動場空調設備設置工事	施 工 区 分 表
工事場所	福岡県筑紫野市立明寺458-1	図 番 M-03 号
設 計 者 氏 名	一級建築士 第126874号 田中 孝秀	
事業所名 及び所在地	株式会社 アスク設計 TEL0979-82-5554本社〒828-0021福岡県豊前市大字八屋1648-11	



空調機器表

記号	名 称	機 器 性 能				電圧	参考消費電力	参考ガス消費量	台数	階	設置場所	備 考	
GHP 1	G H P	室外機 (2 0 馬力)	都市ガス・自立運転型		バッテリー内蔵	耐震 1. 0 G	1Φ200 v	C 1.33 kw	C 49.2 kw	4 台	1	屋外	コンセントは本工事
	空冷 H P 式マルチ	冷房能力 (計算値)		46.0 kw	暖房能力 (計算値)		22.7 kw	H 1.19 kw	H 45.6 kw				室外機基礎、フェンスは
	パッケージエアコン	参考冷房能力 (定格値)		56.0 kw	参考暖房能力 (定格値)		63.0 kw						別途建築工事
		自立負荷最大容量：単相 2 0 0 V 2. 1 k V A											自立スイッチは集中管理
		附属品 冷媒配管分岐ジョイント、自立ユニット、自立ユニット用スタンド											リモコンと同位置に設置
		自立ユニット降圧トランスキット、自立信号キット、自立スイッチ共											
GHP 1-1	G H P	室内機 天吊形					1Φ200 v	C 0.06 kw		9台	1	アリーナ	防球格子は別途建築工事
	空冷 H P 式マルチ	冷房能力 (計算値)		16.0 kw	暖房能力 (計算値)		18.0 kw	H 0.06 kw					
	パッケージエアコン	冷房能力 (定格値)		16.0 kw	暖房能力 (定格値)		18.0 kw						
		附属品 ワイヤードリモコン・支持金具 共											
	輻射パネルユニット	体育館仕様輻射パネル：横型		冷媒輻射パネル (メーカー標準)						9台	1	アリーナ	参考型番：特 E-H L-9 L R
		パネル寸法：2, 2 0 0 L × 6 0 0 H × 1 3 5 D											※配管取出位置は図面による。
		固定アングル金物 (S U S) 共											※特許製品
	集中管理リモコン	タッチパネル式 機能：運転／停止・運転モード切替・温度設定・優先指示								1		屋内運動場の照明	
		※体育館～集中リモコンまでの空配管、取付ボックスおよび電源は本工事										スイッチ横	
		※遠隔地からパソコン (w e b) による管理が出来るもの (ランニングコストが不要なもの)											
		参考型番： P S C-A 1 2 8 E X 5											



GHP空調機 標準系統図

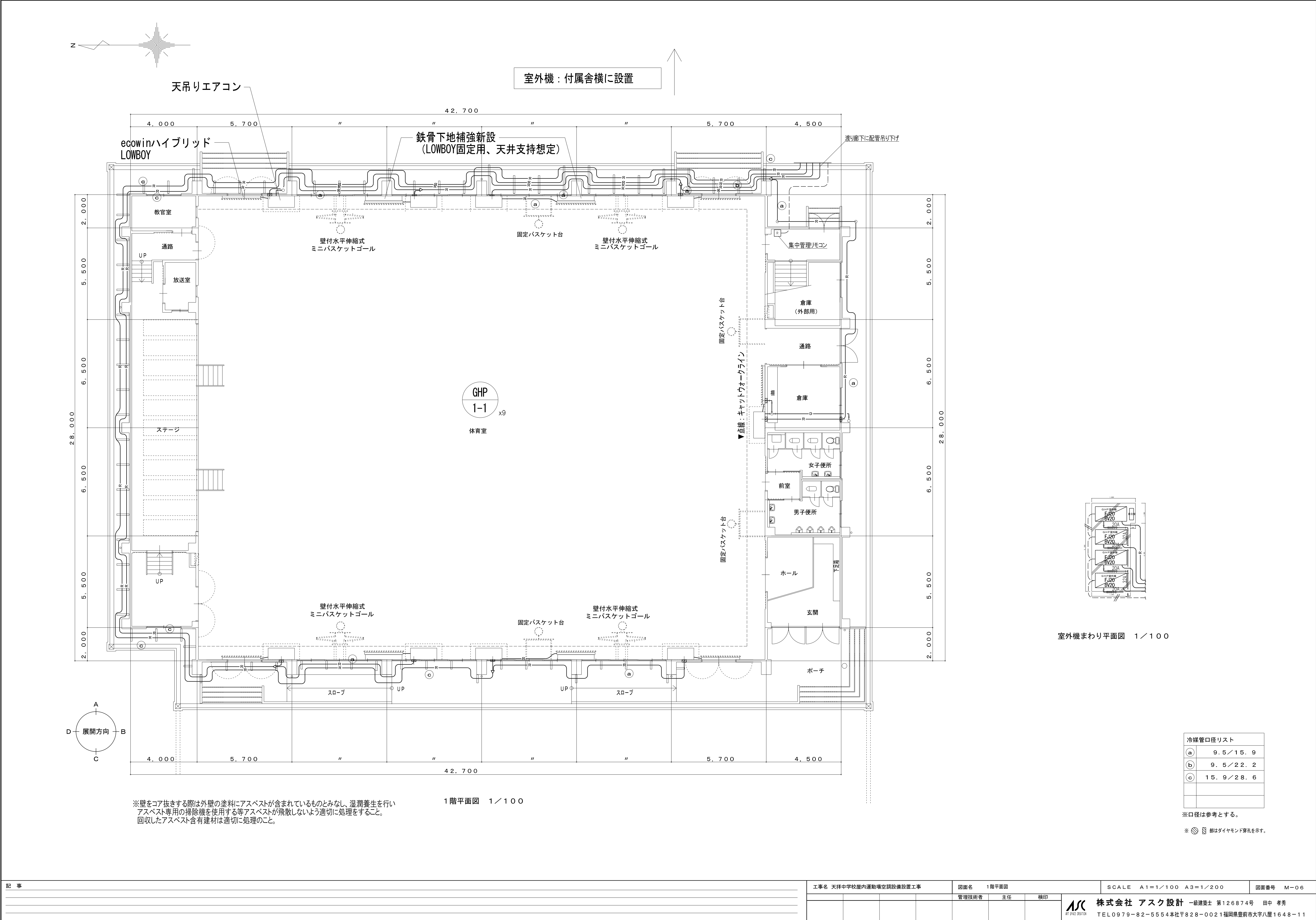
※電源配線は冷媒管共巻きとする。
リモコン配線は配管を使用のこと。

電 気 工 事 凡 例	配 線
——//——	集中リモコン配線 C V V - S 1. 2 5 m m ² - 2 C
——///——	自立運転操作盤用配線 C V V - S 1. 2 5 m m ² - 3 C
——////——	自立運転操作盤用配線 C V V - S 1. 2 5 m m ² - 4 C

上記 3 本は同一配線経路とする

冷媒管口径リスト	
Ⓐ	9. 5 / 1 5. 9
Ⓑ	9. 5 / 2 2. 2
Ⓒ	1 5. 9 / 2 8. 6

※口径は参考とする。



※壁をコア抜きする際は外壁の塗料にアスベストが含まれているものとみなし、湿潤養生を行いアスベスト専用の掃除機を使用する等アスベストが飛散しないよう適切に処理をすること。回収したアスベスト含有建材は適切に処理のこと。

1階平面図 1/100

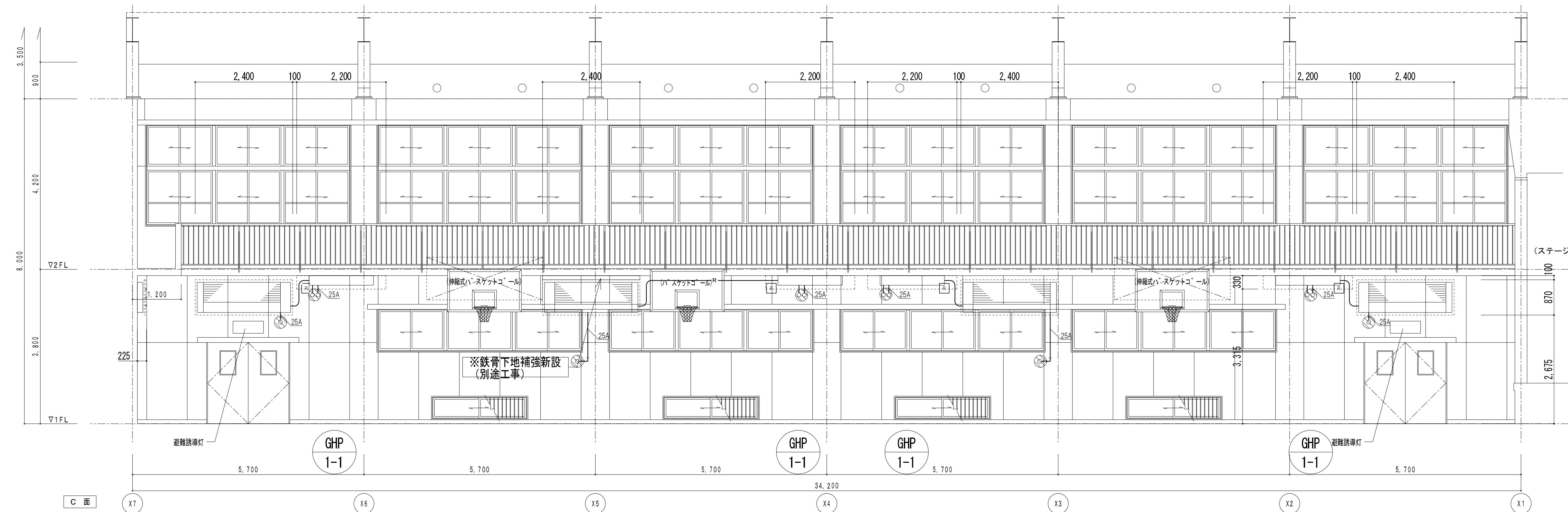
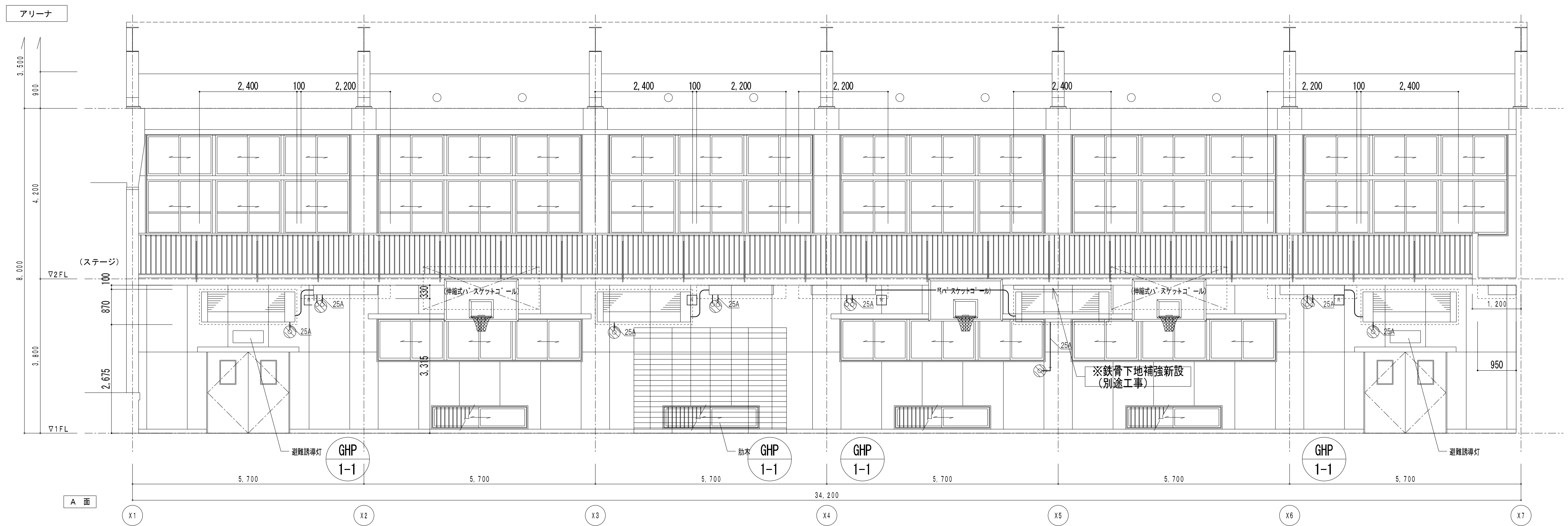
冷媒管口径リスト	
①	9.5/15.9
②	9.5/22.2
③	15.9/28.6

※口径は参考とする。

※ 部はダイヤモンド穿孔を示す。

記 事

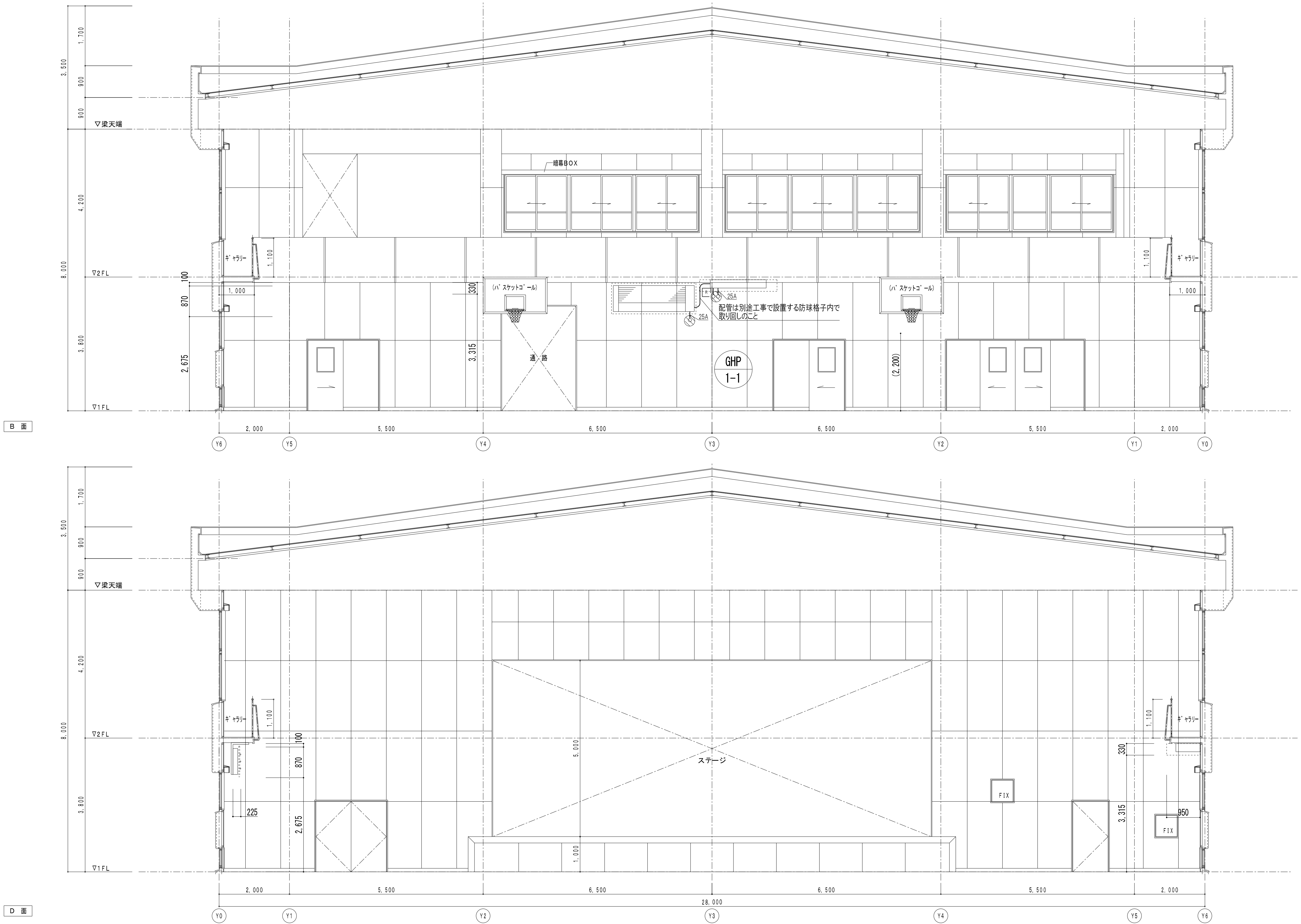
工事名 天祥中学校屋内運動場空調設備設置工事				図面名 1階平面図			SCALE A1=1/100 A3=1/200		図面番号 M-06	
				管理技術者		主任		検印		 株式会社 アスク設計 一級建築士 第126874号 田中 孝秀 TEL0979-82-5554本社〒828-0021福岡県豊前市大字八屋1648-11



※個別リモコンは防球格子内に設置のこと。
屋内露出配管は金属製保護カバーを設置のこと。

※ 部はダイヤモンド穿孔を示す。

記 事	工事名 天祥中学校屋内運動場空調設備設置工事			図面名 展開図 1			SCALE A1=1/100 A3=1/200		図面番号 M-07
				管理技術者	主任	校印			
								株式会社 アスク設計 一級建築士 第126874号 田中 孝秀 TEL0979-82-5554本社〒828-0021福岡県豊前市大字八屋1648-11	



記 事

工事名 天祥中学校屋内運動場空調設備設置工事				図面名 展開図2		SCALE A1=1/100 A3=1/200		図面番号 M-08	
				管理技術者		主任		検印	
								株式会社 アスク設計 一級建築士 第126874号 田中 孝秀 TEL0979-82-5554本社〒828-0021福岡県豊前市大字八屋1648-11	

電 気 設 備 工 事 特 記 仕 様 書

I. 工 事 名 称 天拝中学校屋内運動場空調設備設置工事

II. 工 事 概 要

1. 総合発注の有無 本工事は、以下の工事を含む。（詳細は、図面参照のこと）

- ・
- ・
- ・

2. 工 事 場 所 筑紫野市立明寺458-1

3. 建 物 概 要

建 物 名 称	構 造	階 数	延面積（㎡）	防火対象物の種別	備 考
体育館	S造	1階			

4. 工 事 種 目 （○印を付けたものを適用する）

建 物 別	工 事 種 別				備 考
工 事 種 目	体育館				
○電 灯 設 備	改修 一式	一式	一式		
○動 力 設 備	改修 一式	一式	一式		
・ 避 雷 設 備	一式	一式	一式		
○受 変 電 設 備	改修 一式	一式	一式		
・ 静止形電源設備	一式	一式	一式		
・ 発 電 設 備	一式	一式	一式		
・ 構内情報通信網設備	一式	一式	一式		
・ 構 内 交 換 設 備	一式	一式	一式		
・ 情 報 表 示 設 備	一式	一式	一式		
・ 映像・音響設備	一式	一式	一式		
・ 拡 声 設 備	一式	一式	一式		
・ 誘 導 支 援 設 備	一式	一式	一式		
・ 呼 出 し 設 備	一式	一式	一式		
・ テレビ共同受信設備	一式	一式	一式		
・ 防 犯 設 備	一式	一式	一式		
・ 自動火災報知設備	一式	一式	一式		
・ 中央監視制御設備	一式	一式	一式		
・ 遠隔量水器設備	一式	一式	一式		
・ デマンド監視・制御設備	一式	一式	一式		
・ 太陽光発電設備	一式	一式	一式		
・	一式	一式	一式		
・ 構 内 配 電 線 路	一式	一式	一式		
・ 構 内 通 信 線 路	一式	一式	一式		
・ 撤去工事	一式	一式	一式		

III. 工 事 仕 様

1 適用仕様等

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の仕様書による。

- （1）「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編 令和 07年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （2）「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編 令和 07年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （3）「公共建築工事標準仕様書（建築工事編 令和 07年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （4）「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編 令和 07年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （5）「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編 令和 07年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （6）「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編 令和 07年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （7）「公共住宅建設工事共通仕様書（令和4年版）」 国土交通省住宅居住宅総合整備課監修

2 補足基準等

適用仕様等、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の基準、指針、要領、標準図等による。

- （1）「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編 令和 07年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修
- （2）「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編 令和 07年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修
- （3）「建築工事標準詳細図（建築工事編 令和 04年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
- （4）「電気設備工事監理指針（令和7年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （5）「機械設備工事監理指針（令和7年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （6）「建築工事監理指針（令和7年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （7）「建築改修工事監理指針（令和7年版）」 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- （8）「建築設備耐震設計・施工指針（ 2014年版）」 国土交通省国土技術政策総合研究所監修
- （9）「建築工事安全施工技術指針・用解説」 国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
- （10）「建設廃棄物処理指針」 厚生労働省生活衛生局
- （11）「建築物解体等に係るアスベスト飛散防止対策マニュアル」環境省大気保全局（環境省アスベスト飛散防止対策研究会）

3 特 記 仕 様

- （1）項目は、○印のついたものを適用する。
- （2）特記事項のうち選択する事項は、○印のついたものを適用する。

項 目

① 機 材

② 電 気 工 作 物

3. 電気保安技術者

④ 工事に必要な資格
(建設業法に関する条をく)

⑤ 官公庁その他への手続き

⑥ 工事用電力・水・その他

⑦ 残 土 処 分

8. 他工事との取合い

⑨ 再 使 用 機 器

⑩ 耐 震 施 工

11. 合成樹脂製可とう電線管

⑫ プレートの材質

13. フロアプレート

14. ハイテンション

15. 蛍 光 灯 器 具

16. 露出配管等の塗装

17 呼 び 線

18. 表 示

⑬ 地中線埋設シート

⑭ 地 中 埋 設 槽

21. 地中埋設配管
(GL-600の場合)

特 記 事 項

この工事に使用する機材は、監督職員の承諾を受ける。
なお、材料及び製品については、地域産材の使用に努めること。

○一般用電気工作物 ・ 事業用電気工作物

事業用電気工作物に係る工事においては、電気保安技術者を置くものとする。

○第1種電気工事士 ・ 第2種電気工事士(もしくは上位資格)
・ 特種電気工事資格者(非常用予備発電装置) ・ 工事担任者 第 3種(もしくは上位資格)
・ 消防設備士甲種 4類 ・ あと施工アンカー第 種施工士(もしくは上位資格)

この工事に必要な官公署その他の関係機関への諸手続等は、これに必要な資機材、労務、及び費用を該負者の負担にて速やかにおこない、その検査に合格すること。

本工事に必要な工事用電力（仮設電力及び試運転調整用電力等を含む）・水及び諸手続等の費用は、すべて該負者の負担とする。

○構内指示の場所に敷均し ・ 構内指示の場所に堆積 ・ 構外搬出適切処理
・ 施工区分表による ・ 図面詳細による

取外し再使用機器は、原則として清掃並びに絶縁抵抗測定を行った後、取り付けること。
但し、絶縁劣化等使用に耐えない場合は、監督職員に報告すること。

設備機器の固定は、すべて「建築設備耐震設計・施工指針」（2005年版）によるものとする。

環境対応型合成樹脂製可とう管（P F 管）の一重管とする。なお、打込配管として使用する場合、原則として呼び径を22までとする。

また鉄筋等への結束には樹脂被覆を施したバインド線を用いること。

○金属製（防水形配線器具を除く） ・ 樹脂製

ベースは、水平高低調整付（空転防止リング付）とする。 ・ 鋳金製 ・ アルミ製

・ 上下動形 ・ 外部固定形 ・ 内部固定形

蛍光灯器具（誘導灯を除く）の安定器の回路方式は、図面に特記なき場合は下表による。

また、器具の選定に当たっては、グリーン購入法に適合したものを優先すること。

蛍 光 灯 の 種 類		回 路 方 式
直 管 形	F H F 1 6 形（防雨形・防湿形及び電池内蔵非常用照明器具）	PH
	F H F 3 2 形、F H F 8 6 形	PN
コ ン バ ク ト 形	F H P 3 2 形	PR
	F H P 4 5 形、F H T 2 4 形、F H T 3 2 形、F H T 4 2 形	PN

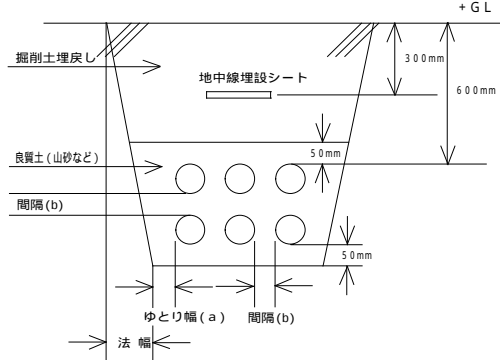
屋内においては水性塗料を原則とし、屋外においても低 VOC 塗料の使用に努めること。

長さ1 m以上の入線しない電線管には電線太さ1 ． 2 mm以上の樹脂被覆鉄線を挿入する。

スイッチ・コンセント及びプルボックスで用途の判別し難いものは、表示する。

地下埋設の線路には、標識シートを2 倍長以上重ね合わせて布設するものとする。

電力用（矢指色：赤色） ・ 樹脂製 ○コンクリート製 ・ 鉄製
通信用（矢指色：黄色） ・ 樹脂製 ・ コンクリート製 ・ 鉄製



・根切り深さが1.5m未満の場合は直堀工法とし1.5m以上の場合には法付工法とする。

法付工法の法幅は、根切り深さに0.3を乗じたものとする。

・床堀幅は、埋設管類などの外径（底面）の寸法にゆとり幅× 2を加えたものとする。

ゆとり幅（a）及び埋設管相互の間隔（b）は、下表を参照のこと。

ゆとり幅（a）	根切り深さ 1 m未満	根切り深さ 1 以上1.5m未満	根切り深さ 1.5m以上	埋設管の 呼び径	間隔（b） （左右・上下）
地中電線管類	0 ． 2 m	0 ． 4 m	0 ． 3 m	5 0 以下	50mm
				1 5 0 "	70mm
地下埋設物	0 ． 5 m	0 ． 5 m	0 ． 5 m	2 0 0 "	100mm

⑫ 接 地 極

接地極の材料は下表による。接地極の近くに接地極埋設槽 9 0 × 1 4 0 × 1 ． 5 t（黄銅製・刻印）を設置すること。なお、接地棒 EB（1 4 ）φ の長さは1,5 0 0 mm以上とし、1 0 φ ・ 1 4 φ は、W = 4 0 として差し支えない。

接 地 の 種 別	記 号	接地抵抗値	接 地 極
・ 共 同	E _{A・C・D}	Ω 以下	
・ 共 同	E _{A・D}	Ω 以下	
・ A 種	E _A	1 0 Ω 以下	
・ B 種	E _B	Ω 以下	
・ C 種	E _C	1 0 Ω 以下	
○ D 種	E _D	1 0 0 Ω 以下	E B（1 0 ）φ × 1(L=1,500mm)
・ 避 雷 設 備	E _L	1 0 Ω 以下	
・ 高 圧 避 雷 器	E _{LH}	1 0 Ω 以下	
・ 低 圧 避 雷 器	E _{LL}	1 0 Ω 以下	
・ 交 換 機 用	E _I	1 0 Ω 以下	
・ 通 信 用	E _{AI}	1 0 Ω 以下	
・ 通 信 用	E _{CI}	1 0 0 Ω 以下	E B（1 0 ）φ × 1(L=1,500mm)
・ 測 定 用	E _O		E B（1 0 ）φ × 1(L=1,500mm)

避雷設備の接地抵抗値は、総合抵抗とする。

本工事における構内交換設備の工事範囲は、以下のとおりとする。

・ 構内交換装置 ・ 電話機取付け （ 台 ）
・ 配管配線まで本工事 ・ 配管のみ本工事 ・ 配線のみ本工事

電話機1 台につき次のものを見込む。

・ T1VF(T1VE) 0.65-2C m ・ EM-T1EF(T1EE) 0.65-2C m
・ EBTO.4-2P m ・ EM-BT1EED.4-2P m
・ 2号ワイヤプロテクタ m

本工事における構内情報通信網設備の工事範囲は、以下のとおりとする。

・ 構内情報通信網装置 ・ ネットワーク管理装置 ・ 配管配線まで本工事
・ 配管のみ本工事

・ LAN：薄青色

拡声設備において、増幅器などの入出力路と配線との接続は、コネクタなどを取付けを行うこと。

自動火災報知設備において、感知器が作動した場合に受信機及び運動制御機と連動して空調

機並びに送排風機を停止させる。

・ 単 独 （ ・ 自立形 ・ 壁掛形 ）

・ 液化石油ガス用 ・ 都市ガス用

・ 配管のみ本工事 ・ 機器取付調整まで本工事

躯体貫通箇所においては探査機を使用し、コンクリート内配筋を避け貫通すること。

発電機回路に接続されるコンセントは、回路種別が識別できるものとする（赤色）

蓋また、用途別に「高圧」「電気」「弱電」の刻印をすること。

屋外に設置するものには、事前に水抜き穴を設けること。

⑮ プルボックス

⑬ 建築副産物の処理について

資源の有効利用・環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制・再利用・適正処理を推進する。

現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別保管場所を設置し集積すること。

また、「再生資源の利用の促進に関する法律」・「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」・「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。

工事に際しては、工事着手時に「建設副産物処理計画書」、工事竣工時に「建設副産物処理結果報告書」（共に添付書類を含む）を提出すること。

指定副産物（原則として、再資源化施設へ持込むもの）

指定副産物（原則として、再資源化施設へ持込むもの）	その他の副産物
・ が れ き 類 （コンクリート塊） （アスファルト コンクリート塊） ・ 木 く ず ・ 建 設 発 生 土 ・ 汚 泥	・ 廃 プ ラ ス チ ッ ク ・ ガラス・陶磁器くず ・ 廃 石 こ う ボ ー ド ・ 金 属 く ず ・ 織 維 く ず

特別管理産業廃棄物

・ 廃 石 綿 等
「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」（環境省大気保全局）に従い、収集・運搬・処分を行うこと。

・ 廃 P C B 等
「電気事業法：電気関係報告規則」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する別措置法」に従い、報告書の作成・届出を行うとともに、適切に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。

参考受入場所は、現場説明書による。

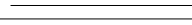
建築副産物の処理内容（○印を塗りつぶしたものを適用する。）

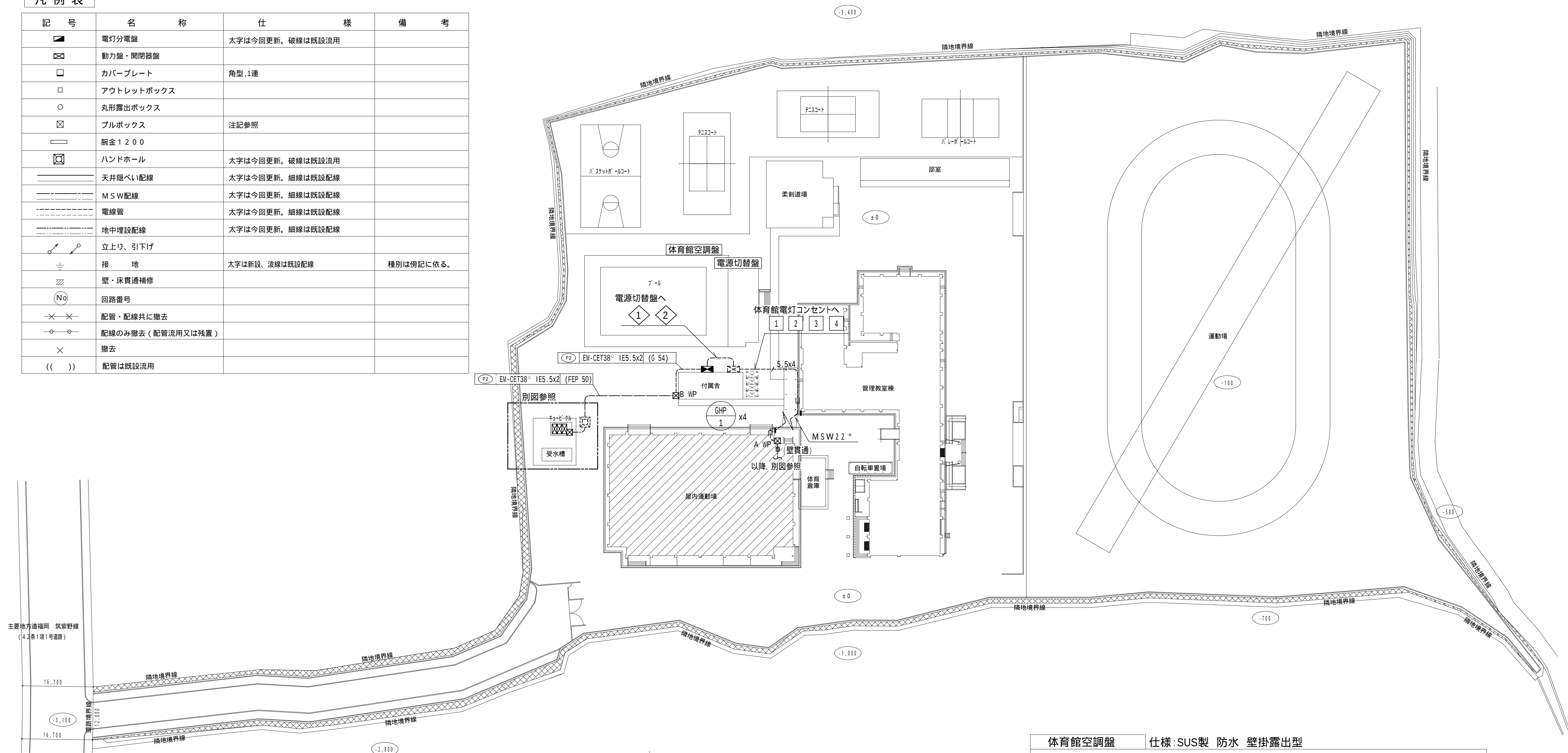
処 理 内 容	備 考
現場内における分別	○
現場内分別保管場所の設置	○
現場内分別保管場所までの運搬	○
分別保管場所からの積み込み・運搬・処分	○
「建設副産物の処置計画書」の作成	○
「建設副産物の処理結果報告書」の作成	○
「再生資源利用計画書」の作成	
「再生資源利用実施書」の作成	

・ 既存流用配線は、絶縁測定を行い絶縁性能確認の上接続すること。

⑬ そ の 他

凡 例 表

記 号	名 称	仕 様	備 考
	電灯分電盤	太字は今回更新。破線は既設流用	
	動力盤・開閉器盤		
	カバープレート	角型、1連	
	アウトレットボックス		
	丸形露出ボックス		
	ブルボックス	注記参照	
	腕金 1 2 0 0		
	ハンドホール	太字は今回更新。破線は既設流用	
	天井隠い配線	太字は今回更新。細線は既設配線	
	M S W配線	太字は今回更新。細線は既設配線	
	電線管	太字は今回更新。細線は既設配線	
	地中埋設配線	太字は今回更新。細線は既設配線	
	立上り、引下げ		
	接 地	太字は新設、波線は既設配線	種別は傍記に依る。
	壁・床貫通補修		
	回路番号		
	配管・配線共に撤去		
	配線のみ撤去（配管流用又は残置）		
	撤去		
	配管は既設流用		



1. ケーブル配線で二重天井内以外は、電線管で保護すること。
 2. 防火区画及び防火上主要な間仕切壁部分を貫通する配管配線は、防火区画貫通処理を施すこと。
また、壁・床の前後1m以上をスラブに打込みとするか、金属管にて前後1m以上の保護としてもよい。
 3. 位置ボックスの布設場所是最奇巧の天井点検口付近とする。
 4. 図中特記なきブルボックスは下記による。

	A	$200 \text{ 〃} \times 200$
	B	$300 \text{ 〃} \times 200$
	C	$400 \text{ 〃} \times 300$
- 記号の傍記については、WPはステンレス製・防水型、VEは樹脂製を示す。
また、VE以外は塗装すること。

(注記)

1. 図中特記なき配管配線は下記による。

5.5x4 / -----	EM-CE5.5 ° -3Cx4	配管部(31,28)x4

配置図 1 / 500

凡例

空調整備建物を示す。

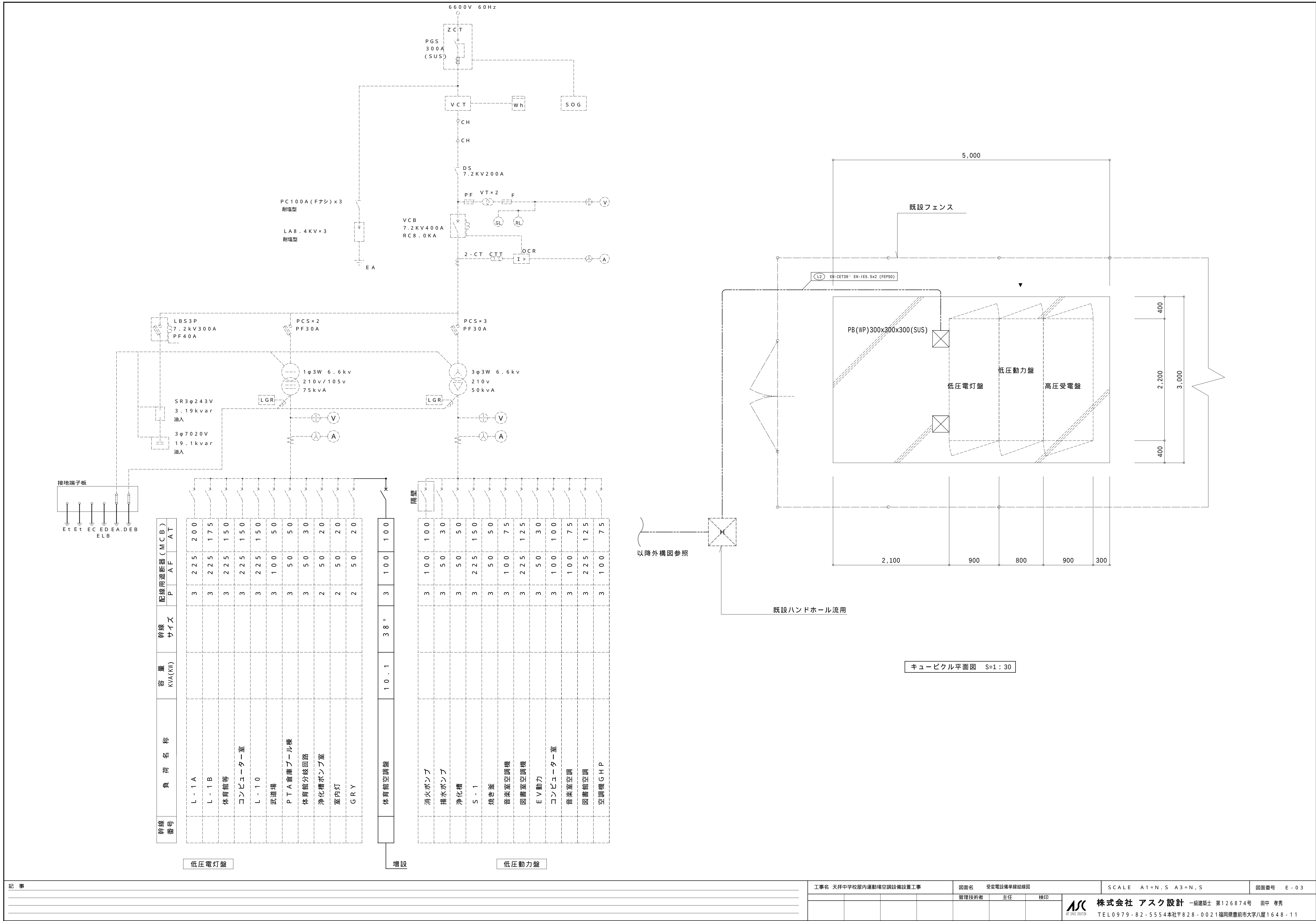
体育館空調盤

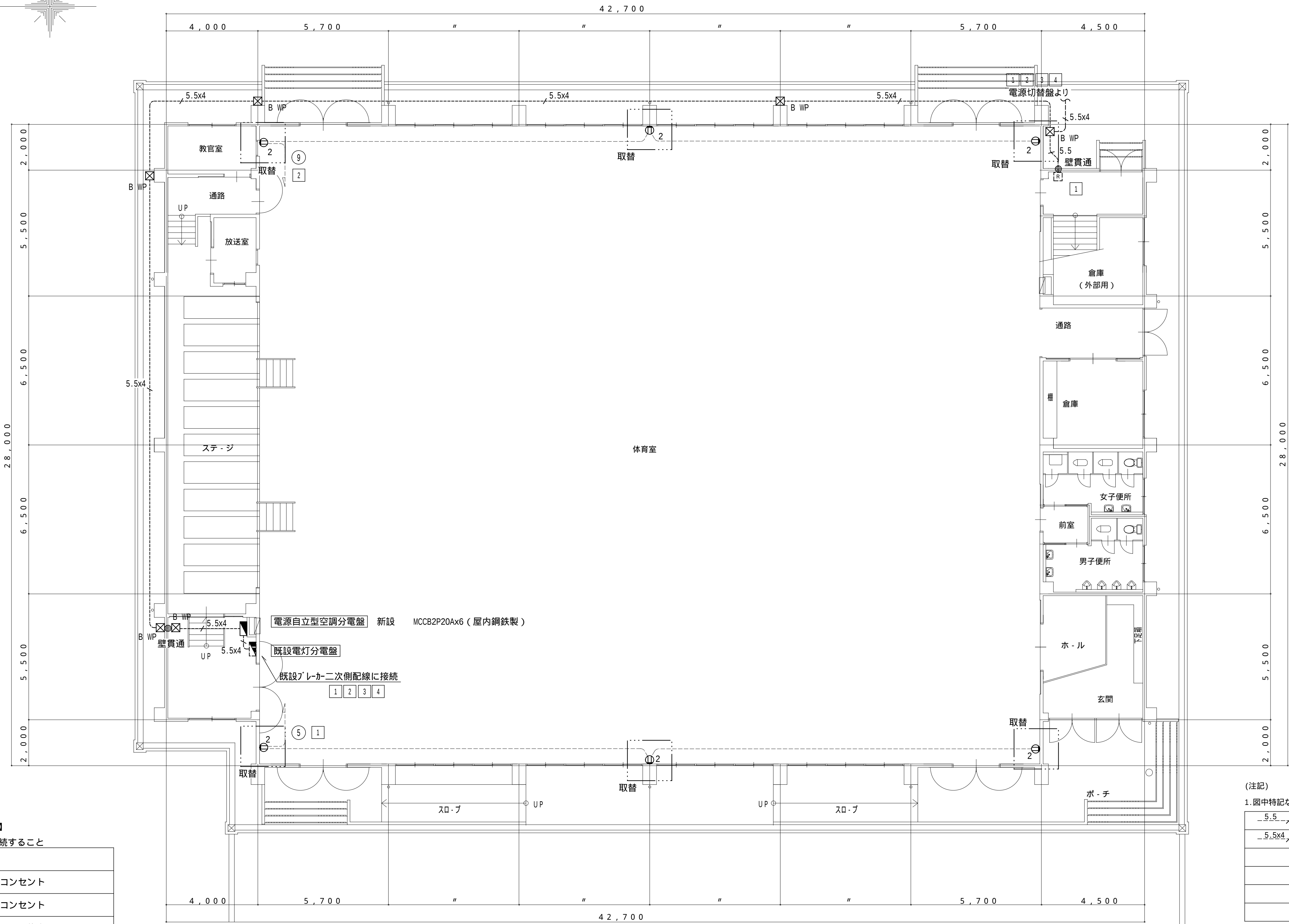
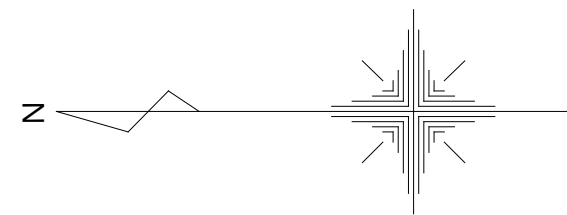
仕様:SUS製 防水 壁掛露出型

QBより
1Φ3W 100-200V CET38□

番号	機器名称	負荷容量 (KW)	シャ断器/ケーブルサイズ
1	電源切替盤 (1φ2W200V)	6.65	ELCB2P 50AF/ 50AT EM-CE8 φ-3C (1E) (G28, 30)
2	電源切替盤 (1φ2W200V)	1.44	ELCB2P 50AF/ 50AT EM-CE8 φ-3C (1E) (G28, 30)

○ ED
○ EL2





【既設電灯盤 接続対比表】

既設ブレーカー二次側配線に接続すること

自立回路	既設回路	負荷名称
1	5	アリーナコンセント
2	9	アリーナコンセント
3		アリーナ照明 (将来用)
4		アリーナ照明 (将来用)

将来用配線は盤内にてテーピング処理のこと (接続しない)

(注記)

1. 図中特記なき配管配線は下記による。

5.5	EM-CES.5°-3C	配管部(31.28)
5.5x4	EM-CES.5°-3Cx4	配管部(31.28)x4

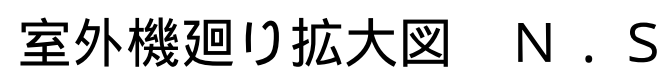
凡 例

記 号	名 称	備 考
☒	プルボックス WP・SUS サイズは傍記による	
Ⓜ2	埋込コンセント 2P15A×2 発電表示 (赤色)	最大接続容量を表示すること。
R	空調設備集中リモコン (機械工事) 取付ボックスのみ	屋内鋼鉄製 W300xH300xD160

1階平面図 1 / 100

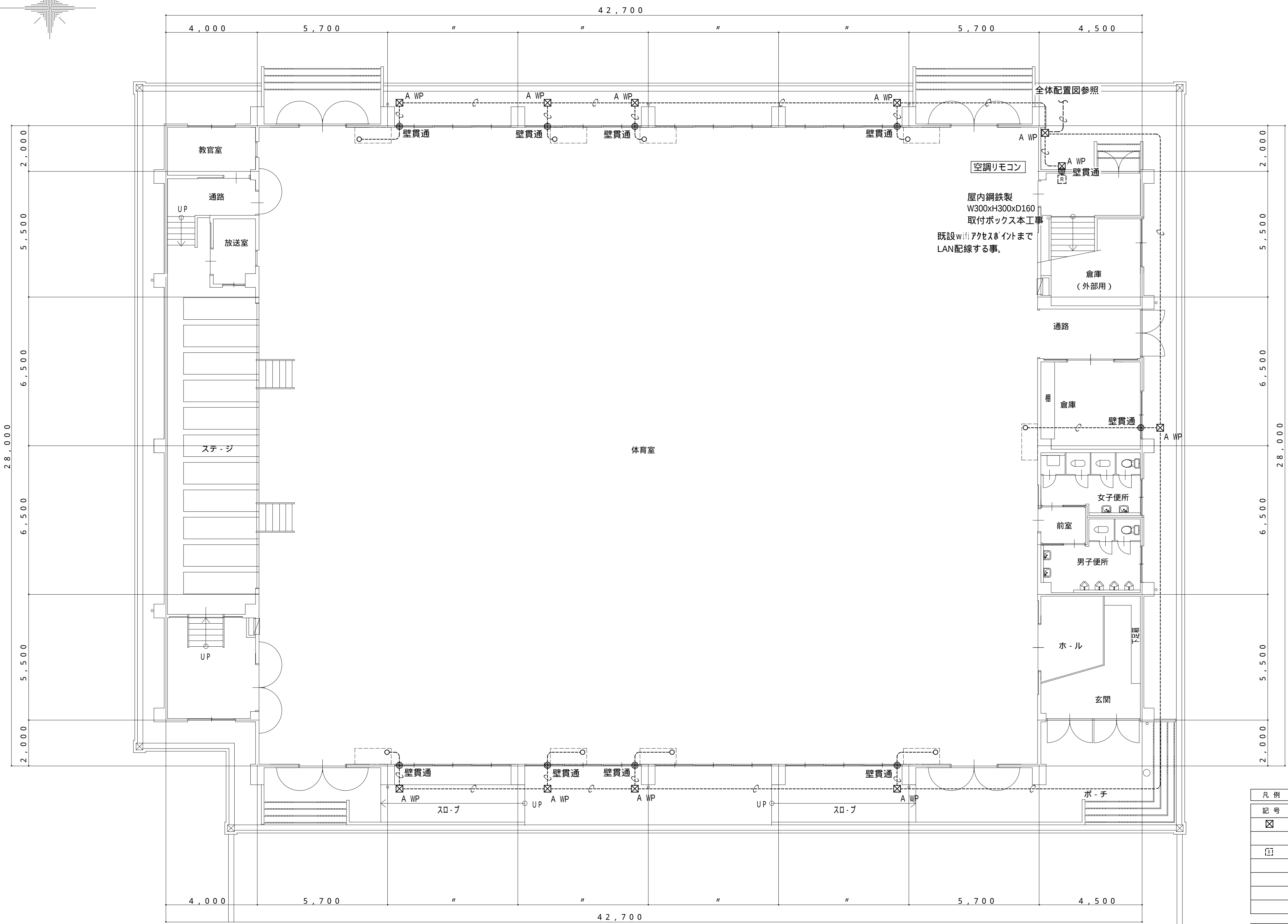
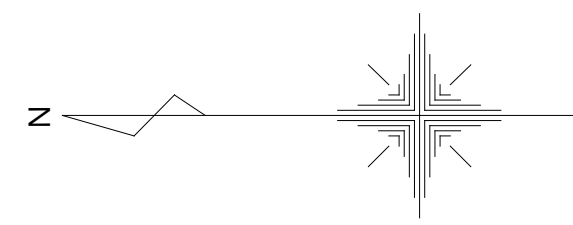
記 事

工事名 天祥中学校屋内運動場空調設備設置工事	図面名 電灯コンセント設備 1階平面図	SCALE A1=1/100 A3=1/200	図面番号 E-04
	管理技術者 主任 校印	ASCC 株式会社 アスク設計 一級建築士 第126874号 田中 孝秀 TEL0979-82-5554本社〒828-0021福岡県豊前市大字八屋1648-11	



- 配置図 1 / 500

注 記	
1. 特記なき配管記線は下記による。	
	保護管 (G22) 防水7秒 24
2. 屋外露出面所は厚鋼電線管にて保護すること。	



1階平面図 1 / 100

凡 例		
記 号	名 称	備 考
☒	ブルボックス WP・SUS サイズは傍記による	
[G11]	空調設備集中リモコン 取付ボックスのみ	屋内鋼鉄製 W300xH300xD160

注 記		
1. 特記なき配管配線は下記による。		
-----φ-----	空調リモコン用空配管	保護管 (G11) (防水2層 24)
2. 屋外露出面所は厚鋼電線管にて保護すること。		